

2024年度 社会福祉法人 寿泉会
特別養護老人ホーム泉園（短期入所者生活介護事業）事業実績報告書

1. 2024年度の事業活動について

利用者様の健康の維持・向上や活力の増進を図り、心身のゆとりを保つため、利用者様一人ひとりに応じた対応を行いました。入所者の方々の健康管理を行い、体調不良時には早期に対応できるように、観察項目を職員間で共有し、利用者様の体調の変化を継続的に観察しました。併設する短期入所生活介護事業所との連携を図り、新規入所までの期間を短縮できるよう努めました。

2. サービス提供について

（1）機能訓練（リハビリテーション）について

理学療法士による日常動作訓練や関節可動域訓練を実施し、座位や臥位での適切なポジショニングについての助言を受け、利用者様の機能維持に役立てました。

（2）日中活動（アクティビティサービス）について

施設内外でさまざまな行事を企画・実施し、利用者様にご参加いただきました。

（3）認知症ケアについて

職員が研修等に参加して認知症への理解を深め、利用者様一人ひとりに寄り添い、安心して過ごしていただけるよう支援を行いました。

（4）口腔・栄養管理について

管理栄養士の指導のもとで栄養ケアを行い、口腔ケアは介護職員が実施し、必要に応じて歯科医による指導・治療を行いました。

（5）感染症対策について

処置時の手袋着用を徹底するとともに、職員にはうがい・手洗い・手指消毒・マスクの着用を励行しました。

（6）事故抑止について

インシデントやアクシデントを分析し、必要な対策を講じたうえで経過観察を行い、その結果をケアプランに反映させることで再発防止に努めました。

3. 行事の実施について

（1）施設全体行事

4ページ「2024年度実施行事」のとおり開催しました。

（2）フロア行事

定期的に喫茶などを開催し、利用者様同士の会話の機会や、職員とのコミュニケーションの場を設けました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

運営会議、リーダー会議、入所判定会議を毎月開催しています。各委員会についても、基本的に毎月定例で開催しています。

(2) 研修

施設内研修を実施し、職員が参加しています。また、老施協や社会福祉協議会等が主催する研修や、認知症に関する外部研修にも、希望する職員が積極的に参加しています。

(3) 委員会

身体拘束廃止・虐待防止検討委員会、感染症予防対策委員会、リハビリ委員会、褥瘡対策検討委員会、サービス向上・事故防止委員会、行事企画委員会を設置し、それぞれの目的に応じた活動を行っています。

5. コストに関する取り組みについて

現場のスタッフ間でコスト意識の共有に力を入れ、あらゆる面での節約に取り組んでいます。特に、施設内の節電・節水に努めています。施設で使用する物品についても、基本的には修理を優先し、新規購入が必要な場合は、十分に精査したうえで検討しています。

6. 事業の稼働について

2024 年度は、職員の人員不足や登録利用者数の減少もあり、退所への対応が遅れたことから、稼働率が低下しました。また、新規利用についてもロングショートからの移行が多く、全体として大幅な稼働率の低下につながりました。

7. 利用実績データ（入所事業所分）

(1) 利用者実績

区分	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	27,031 人
年間稼働率	92.56%

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

特別養護老人ホーム 泉園					
区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	5	10	0	0	0
女	17	9	2	0	0
計	22	19	2	0	0
		21			

(3) 年齢別利用者数（2024年度末現在）

区 分		64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)
特養 泉園	男	2	0	2	2	3	4	4	17	81.8
	女	0	0	1	7	10	16	21	55	87.3
	計	2	0	3	9	13	20	25	72	86.0
	%	2.8	0	4.2	12.5	18.0	27.8	34.7	≒100	—

(4) 在籍期間別利用者数（2024年度末現在）

区分		14日以内	15日～1月	1～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年以上	合計
特養 泉園	男	0	0	1	1	2	4	9	17
	女	0	1	2	3	7	14	28	55
	計	0	1	3	4	9	18	37	72
	%	0	1.4	4.2	5.5	12.5	25.0	51.4	≒100

(5) 要介護度別利用者数（2024年度末現在）

区分	計
要介護1	0
要介護2	1
要介護3	18
要介護4	32
要介護5	21
計	72
平均介護度	4.01

(6) 認知度別利用者数（2024年度末現在）

区分	計
Ⅲ未満	16
Ⅲ以上	56
計	72

(7) 利用者様の食事形態（2024年度末現在）

ア) 主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	11	13	42	6	0	0	72

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	超々きざみ	経管栄養	計
計	7	20	24	8	13	0	72

(8) 利用者様の生活状況（2024年度末現在）

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	44	11	17	72

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
計	4	4	26	38	72

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	1	9	62	72

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	3	10	59	72

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	11	15	46	72

カ) おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
計	50	6	56

(9) 2024年度実施行事

行事实施月及び行事名等	
4月	喫茶、桜見、盲学校実習、買い物代行
5月	喫茶、和菓子屋さん行事、盲学校実習、音楽・カラオケクラブ、買い物代行
6月	おやつ作り、和菓子屋さん行事、音楽・カラオケクラブ、買い物代行
7月	喫茶、おやつ作り、音楽・カラオケクラブ、夏祭り、買い物代行
8月	喫茶、買い物代行
9月	喫茶、買い物代行
10月	
11月	保育園おまつりごっこ
12月	忘年会
1月	新年祝賀会、買い物代行
2月	買い物代行
3月	買い物代行

7. 利用実績データ（短期入所事業所分）

（1）利用者実績

区分	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	4373
年間稼働率	60%

（2）年齢別利用者数（2024年度末現在）

区 分		64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年 齢(歳)
短期入所	男	0	1	0	3	2	3	0	9	79.33
	女	0	0	3	5	5	4	5	22	83.36
	計	0	1	3	8	7	7	5	31	81.35
	%	0	3.2	9.6	25.8	22.6	22.6	16.1	100	—

（3）要介護度別延べ利用者数

区分	計
要支援1	0
要支援2	0
要介護1	283
要介護2	302
要介護3	2,138
要介護4	1,147
要介護5	503
計	4,373
平均介護度	3.3

（4）介護度別世帯状況（2024年度末現在）

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援1	—	—	—	—
要支援2	—	—	—	—
要介護1	0	0	1	3
要介護2	0	1	3	0
要介護3	4	6	4	4
要介護4	1	0	6	5
要介護5	0	4	0	4

（5）認知度別利用者数（2024年度末現在）

区分	計	合計
Ⅲ未満	19	31
Ⅲ以上	12	

2024年度 社会福祉法人寿泉会
泉園デイサービスセンター事業報告書

1. 事業所の運営方針について

利用者様の人権と尊厳を守り、日常生活の活性化・心身機能の維持向上を目的とし、個々の残存機能に応じた自立生活を営むための分析を行い、居宅サービス計画に基づいた個別援助計画を作成し、実施いたしました。

また、日々介護に携わっている介護者の身体的・精神的負担を軽減し、利用者様それぞれの暮らしや趣味を生かした、様々なニーズに密着した質の高いサービスの提供に努めました。

2. 泉園デイサービスセンターとしての取り組み

(1) 利用者様確保へ向けた取り組み

- ・担当居宅支援事業所、新規事業所を含めて営業に伺い、新規利用者の獲得に努める。
- ・経済的な支援が必要な方には、時短利用の幅を広げ対応する。
- ・職員による応援体制を整え、送迎範囲を広域に伸ばし、受入れを可能にする。
- ・朝食、夕食の提供サービスを行う。(利用時間8－9時間対応)
- ・按摩師による個別機能訓練を実施する。
- ・食事料金等の自費金額を低額の530円で提供する。

(2) 職員の資質向上へ向けた取り組み

会議等で議論した内容を職員全員で実施し、評価・問題点を速やかに把握し、業務内容の改善を行い、個々に応じた対応を提供しました。

(3) サービスの質の向上へ向けた取り組み

- ・些細な情報でも職員が共有し、利用者の状態を把握することで、一人ひとりのニーズに応じた対応に取り組めた。
- ・月1回の会議で、業務内容の確認、利用者対応の検討等がある際には、変更などにも臨機応変に対応する。
- ・週に1回フェニックス健診クリニックのインストラクターの講師に来ていただき、体操やレクリエーションを提供することでマンネリ化を防ぎ、職員への指導を通して学びを得ることができた。
- ・外出支援

3. 主な行事の実施

(年間行事表)

	行事内容	備 考
4月	お花見（桜） 誕生会	実施時期については桜前線を確認
5月	端午の節句 おやつ作り	雰囲気作り
6月	おやつ作り	
7月	七夕	雰囲気作り（短冊等）
8月	おやつ作り 夏祭り	
9月	お月見 おやつ作り	雰囲気作り
10月	おやつ作り	
11月	おやつ作り	
12月	忘年会・クリスマス会 おやつ作り	
1月	初詣 餅つき	最寄りの神社（護国神社/辰水神社） 紅白餅白寿お祝い
2月	節分 おやつ作り	雰囲気作り
3月	ひな祭り お花見	雰囲気作り

(月行事)

- ・誕生会
- ・泉農園（随時実施）
- ・インストラクターによる集団体操・レクリエーション
- ・理髪

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

運営会議

毎月第1水曜日 事業所の運営に関する内容

デイサービス会議

毎月第1火曜日 業務の見直し、情報共有、行事関係、職員の意見交換

地域密着型サービス運営推進会議

奇数月第3水曜日 地域との連携、情報交換

(2) 研修

B C P研修

自然災害・感染症 資料を基に研修

(3) 委員会

高齢者虐待防止・身体拘束委員会（随時開催）
感染症・まん延防止（随時開催）

5. コストに関する取り組み

職員1人ひとりがコストの意識を持ち、光熱費や備品や文具や生活雑貨などの消耗品の節約に取り組みました。
物品の購入先も安価な場所に変更し、コスト削減に努めています。
老朽化が進み、交換・修理するものも増えてきており、全て購入することはせず、早急に必要ものをリスト化し、購入や修繕に取り組みました。

6. 事業所の稼働管理

- ・事業所の稼働目標数値を設定し、数値管理を行いました。
- ・稼働率の目標値を80%と設定していましたが、実績は57.14%にとどまりました。
- ・稼働率が目標を下回った際には、稼働状況を分析し、対策を検討しました。
- ・新規利用獲得人数に対して、入院・入所・ショートステイを利用するケースが多くなり、稼働率は低迷しています。

7. 利用実績（通所介護事業所）

(1) 利用者実績

		開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
2024 年度	4月	22日	128人	4.9人／日	7（1）人	9（1）人	2.4
						16（2）人	
	5月	23日	128人	4.7人／日	7（1）人	9（1）人	2.4
						16（2）人	
	6月	20日	110人	4.4人／日	6（1）人	8（1）人	2.5
						14（2）人	
	7月	23日	129人	4.8人／日	6（1）人	7（1）人	2.5
						13（2）人	
	8月	22日	104人	3.9人／日	4（1）人	6（1）人	2.6
						10（2）人	
	9月	21日	114人	4.6人／日	5（1）人	7（1）人	2.4
						12（2）人	
	10月	23日	128人	4.7人／日	6（1）人	7（1）人	2.2
						13（2）人	
	11月	21日	103人	4.0人／日	7（1）人	6（1）人	2.2
						13（2）人	
	12月	22日	98人	3.8人／日	7（1）人	6（1）人	2.2
						13（2）人	
	1月	20日	67人	2.5人／日	7（1）人	7（1）人	2.1
						14（2）人	
	2月	20日	84人	3.5人／日	7（1）人	8（1）人	1.4
						15（2）人	
	3月	21日	120人	4.6人／日	7（1）人	9（1）人	1.9
						16（2）人	
	年度 合計	合計 258日	延べ 1313人	年間平均 4.2人／日	76（12）人	89（12）	平均 2.2
						165（24）人	

(2) 年齢別利用者数 (2024 年度)

	64 歳 以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳 以上	合計	平均年 齢(歳)
男	—			2	4	1		7	81.7
女	—	1		3	2	2	1	9	81.2
計	—	1		5	6	3	1	16	81.4
%	—	6		31	38	19	6	100	—

(3) 介護度別世帯状況 (2024 年度)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1				
要支援 2	2			
要介護 1	1	1	2	3
要介護 2	1	1	2	
要介護 3	1			
要介護 4	1			
要介護 5				1

(4) 利用者の生活状況 (2024 年度)

食 事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	14	1	1	16	
移 動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	7	7	1	1	16
入 浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	9	5	2	16	
着 脱	自力	一部介助	全介助	計	
	10	4	2	16	
排 泄	自力	一部介助	全介助	計	
	11	3	2	16	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	0	1	1		

2024年度 社会福祉法人寿泉会
津中部西地域包括支援センター事業実績報告書

1. 2024年度の事業活動について

2023年5月8日から「新型コロナウイルス感染症」が、2類相当から「5類感染症」に引き下げられた事に伴い制限が撤廃され、2024年度も2023年度と同様に地域の対象者への訪問面談の実施や、包括主催の会議・研修会などを参集にて開催する事ができた。

泉ヶ丘団地のニコニコサロン泉ヶ丘において行われている、地域ささえあい通所支援事業（住民主体のサービス）とも協働し取り組むことができた。

また、法人の取り組みとして、同法人内の中部東包括や理事長を交えて包括の支援困難な相談事例に対して、カンファレンスを実施することで、住民の Well-Being（ウェルビーイング）を目指して取り組むことができた。

2. 各支援業務について

（1）総合相談支援業務

【相談受付等について】

①相談記録は、相談票を作成して回覧するとともに、相談内容に応じて適切な専門職種の担当職員を割り振り、朝礼で申し送りを行い、職員間での情報共有を図った。

また、担当職員が不在の場合でも他の職員が対応できるよう、対応内容を支援経過に記録し、情報共有を行った。

②相談者等からの連絡待ちになっているケースについては、包括会議で確認の時間を設け、支援の経過を確認し、終結を目指して取り組めた。

【認知症高齢者等及び家族への支援】

認知症地域支援推進員や保健師を中心に認知症高齢者やその家族の相談に対して、支援対応を行った。また、認知症サポーター養成講座と認知症サポーターステップアップ講座を受講され「津市チームオレンジ・あしたば」に入会されたメンバーの方々、津市役所内の地域包括ケア推進室の認知症地域支援推進員、津中部北地域包括支援センターの認知症地域支援推進員と合同で認知症支援の各団体と連携しながら本格的に活動を実施できた。

包括で個別に主催する認知症サポーター養成講座は、外部機関からの依頼や包括からの案内で地域の高齢者サロン・薬局や民生委員などに対し合計5回（参加人数62人）実施し、津市からの年間目標回数の2回以上を達成でき、目標参加人数の50人以上も達成する事ができた。

（2）権利擁護業務

【高齢者虐待への対応】

虐待が疑われる相談について、津市役所の担当課や関係機関と情報共有を図り、訪問等にて状況把握に努めた。その上で、関係機関との連携の下、高齢者の生命身体の安全確保や虐待防止の為の養護者等の支援に取り組んだ。

【成年後見制度等への対応】

相談内容に応じて、成年後見制度か日常生活自立支援事業かの対象者であるかを見極め、制度の説明や津市社会福祉協議会等の担当窓口の紹介を行った。成年後見サポートセンターや日常生活自立支援センターの担当者との連携を図り、必要に応じ同行訪問などの個別対応を行った。

【消費者被害】

2024 年度も高齢者世帯を狙った特殊詐欺被害の情報提供の連絡が警察等から寄せられ、包括から居宅介護支援事業所の担当ケアマネージャー・津市役所の担当課（地域包括ケア推進室・高齢福祉課・津市消費生活センター）へ情報共有・連携を図るとともに、エリア内の在宅介護支援センターや居宅介護支援事業所の介護支援専門員，市内の地域包括支援センターに対しても注意喚起を行った。

（3）包括的・継続的ケアマネジメント業務

【包括的・継続的ケアマネジメント体制（地域ネットワーク）の構築】

- ① 地域ケア会議については、地域ケア個別会議（支援困難）を計 6 回、地域ケア個別会議（自立支援）を 1 回開催し、津市からの年間目標回数である 6 回を無事に達成することができた。また、地域情報交換会（協議体）を通じて、津市社会福祉協議会、民生委員、津市総合支所、保健センター、警察等とできる限りの情報共有および連携を図り、地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みを行った。地域ケア個別会議では、支援困難ケースや自立支援に関する個別の相談事例を通じて、関係機関との連携を図った。
- ② 生活・介護支援サポーター向けのフォローアップ研修については、2024 年度より生活・介護支援サポーターがセンターの業務仕様書より外れた事に伴い、津市役所の担当課（高齢福祉課）が市内包括合同参加の研修を開催し参加した。

【介護支援専門員に対する後方支援】

- ① 介護支援専門員から支援困難ケースに関する対応相談があり、自宅等への同行訪問、地域ケア個別会議（支援困難）の開催、サービス担当者会議への同席など、必要な後方支援を行いました。
- ② 担当エリア内の在宅介護支援センターおよび居宅介護支援事業所の介護支援専門員を主な対象とした地域交流会を 1 回開催しました。

（4）介護予防ケアマネジメント関連業務

計 20 回の出前講座を実施しました。講話の内容に応じたパンフレットなどを使用し、包括職員だけでなく外部講師にも依頼し、高齢者にも分かりやすい講座づくりに努めました。また、講話だけでなく、法人内の健康運動指導士にも協力をお願いし、講座の後半はフレイル・認知症予防にもなる頭と体を動かす運動を取り入れました。

3. 利用実績

年間相談対応件数 (2024年度)

内容・形態/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護方法等 (介護相談)	51	26	34	38	40	45	50	22	26	40	21	47	440
介護保険 サービス	23	11	17	13	28	10	9	14	11	13	5	16	170
介護予防 サービス	50	27	26	22	28	33	39	25	17	23	11	21	322
その他保健福祉 サービス	1	0	0	2	0	1	0	0	0	1	1	3	9
ケアマネジメン ト等	4	7	3	2	3	1	0	0	0	0	1	1	22
虐待・権利擁護	3	5	11	5	5	3	12	16	12	10	8	7	97
医療	0	0	1	0	1	0	0	3	3	3	3	3	17
認知症	0	0	1	1	2	1	0	0	1	2	0	0	8
その他	7	5	9	8	16	2	3	2	7	8	7	8	82
合 計	139	81	102	91	123	96	113	82	77	100	57	106	1167
*若年性認知症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

介護予防給付担当件数 (2024年度)

			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
委託 件数	支援 1	新規	7	4	1	2	5	4	6	3	1	4	4	2	43
		継続	87	97	99	99	100	102	100	100	101	94	92	93	1164
	支援 2	新規	1	5	2	3	3	3	3	3	3	4	4	5	39
		継続	78	80	78	77	75	80	78	78	72	69	68	77	910
	事業 対象者	新規	0	2	0	1	2	1	1	0	2	1	3	1	14
		継続	8	8	10	10	10	11	14	15	15	17	17	19	154
合 計			181	196	190	192	195	201	202	199	194	189	188	197	2324
直営 件数	支援 1	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	支援 2	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	10
	事業 対象者	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
合 計			1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	0	1	13
												総 数		2337	

介護予防給付委託内訳（２０２４年度）

区分	支援区分	介護予防サービス計画				
		新規	継続	合計	委託総数	新規委託事業所数
委託件数	支援 1	43	1164	1207	2324	3
	支援 2	39	910	949		
	事業対象者	14	154	168		
直営件数	支援 1	1	0	1		
	支援 2	0	10	10		
	事業対象者	0	2	2		
合計		97	2240	2337		

2024年度 社会福祉法人寿泉会
八幡園デイサービスセンター事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

- ・事業所として「安心安全な環境と自由で、その人らしい暮らしを着実に積み重ねる」を掲げ、認知症を患っても、その人らしく過ごしていけるよう、利用者様の「できること」に目を向け、能力に応じて対応していくことで、認知症の進行予防・意欲向上に努めました。
- ・利用者様が、住み慣れた地域で生活を継続していけるよう、認知症ケアの確立に向けて各職種が連携し、専門職が介入することでより良い支援ができるよう、取り組みました。
- ・地域に根付き、住民に愛され、なくてはならない存在であり続けることが大切で、月1回第一日曜にニコニコサロンを実施し、八幡園を認知していただけると共に、集いの場となり、交流を図ることで関係性を築くことができました。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

- ・利用者様が住み慣れた地域での生活を維持できるよう、身体状態の維持・向上を目指し、住宅環境の把握、居宅移動導線や動作の助言を行いました。
- ・各専門職が共同して、利用者様のニーズ、日常生活や社会生活等における役割・心身の状態に応じて、3ヶ月ごとにモニタリングを実施しました。また、問題点の抽出やゴールの設定を見据え、個別機能訓練計画書を作成しました。
- ・利用者様、家族様の意向および介護支援専門員の意見も踏まえ、個別機能訓練目標を設定しました。
- ・認知機能の低下、病状の進行などにより心身機能の低下がみられる利用者様に対し、会話を通じて寄り添いながら、リハビリメニューも考慮して実施しました。
- ・身体の痛みにより日常生活に支障をきたしている利用者様には、温熱器具を使用することで疼痛を和らげるよう緩和治療を実施しました。
- ・集団リハビリを行い、利用者様の身体機能維持・向上を図り実施することで、円滑な動作が可能になり意欲向上につながりました。
- ・認知機能が低下した利用者様に対し、体操等の運動療法や手先を動かし普段あまりできない作業（創作活動や園芸作業等）の認知刺激療法を実施しました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

- ・利用者個々のニーズに合ったサービスの提供を心掛け、認知症予防のために脳トレを行い、難易度を多様化するため資料を準備しました。その中から自身で選択して多くの方が参加しやすいような取り組みを行いました。
- ・余暇時間を活用し、季節に合った壁面制作や手芸作業を利用者様主導で実施しました。季節感のある作品作りを行う事で、四季に触れ、楽しみ、完成した時の達成感ややりがいを感じられることで、積極的に参加される方が増えました。
- ・音楽療法を月2回、外部ボランティアによる演奏会等も定期的を開催することで、追加利用を希望される方もおり、参加を希望される姿が見られました。
- ・「できること、できないこと」を職員で決めず、個々の残存機能に目を向け、「やってみたい」

ことへの意思に沿った取り組みを行い意欲向上につながられました。

(3) 認知症ケアについて

- ・職員が認知症ケア研修に参加し、認知症の理解を深め、コミュニケーションを基本とする接し方・リハビリ体操・レクリエーション等、利用者様個々に応じた支援を提供しました。
- ・利用者様が自分らしい生活を送れるよう、自主性を持ち、個々で好きなことを自由に取り組める状況や行動パターンを見据え、ケアにつなげられる環境づくりに取り組みました。

(4) 口腔・栄養管理について

【口腔機能】

- ・食前には口腔体操を実施し、誤嚥予防および嚥下機能の向上に努めました。
口腔内の清掃および観察、定期的な評価、内容や変化について、家族様や介護支援専門員と情報共有を行いました。
- ・むせ込み、吐き出しが多く見られる利用者様に対しては家族様や専門職、介護支援専門員と情報共有を行い、食事形態や摂取方法の見直しを行いました。

【栄養管理】

- ・旬の食材を取り入れ、メニューに季節を感じられる食事を提供しました。
- ・衛生管理については、食事、おやつ前の机や手指のアルコール消毒を実施しました。
- ・利用者様の嗜好、食事制限、摂食・嚥下機能について家族様や他職種と情報交換を行い、適切な食事を提供しました。
- ・厨房職員との食事提供情報の共有を行い、食材の大きさ、硬さ、味付けなどが利用者様からの意見を伝えることで、食べやすく、かつ美味しく提供できました。
- ・食事の様子を観察し、摂食・嚥下状況を確認する事ができました。
- ・食事量を十分に摂取できなかった利用者様に対しては、摂取量を家族様に伝達し情報共有を行いました。利用時に様子の観察、提供方法等を検討しました。

<課題>

- ・調理後の食材はできるだけ、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供する。
- ・食中毒、ノロウイルス等の感染対策に伴い、管理栄養士に厨房職員の衛生教育を行う。
- ・食事量、食事形態の変更があった際は、連絡ミスがないように変更届を記入し厨房職員に連絡する。お互いに声を掛け確認を行い、間違いがないように取り組みました。

(5) 感染症対策について

- ・感染症の流行時期には、職員に対して感染対策および対処法の勉強会を実施し、早期対応に取り組み、感染拡大を防ぎました。
- ・研修や委員会を通し、対策等を感染症BCPに反映しました。
- ・感染予防のため、自己管理を徹底することで風邪症状等がみられる際は、マスクの着用やアルコール消毒を徹底しました。

(6) 事故抑止について

- ・インシデント・アクシデントシートを活用し、発生状況・要因・対策を検討し、今後の対応についての改善策を各職員で共有し、再発防止につなげました。

3. 行事の実施について

- ・年間行事：忘年会
- ・毎月行事：音楽療法（月 2 回）
- ・ボランティア：ピアノ・ウクレレ・ギター演奏
- ・セントヨゼフ交流会（ブラスバンド演奏）
- ・クリスマスイベント
- ・橋南中学校交流会（吹奏楽部）
- ・つ保育園交流会

4. 会議・研修等の開催

（1）会議

- ・デイサービス会議 毎月実施（月 1 回：不定期）
- ・事故防止検討会議（不定期）
インシデント・アクシデント事例をもとに、防止策の検討や事故の再検証を実施しました。
- ・感染予防検討会議（不定期）
コロナウイルス、ノロウイルス・インフルエンザ等感染症流行時に看護師指導のもと勉強会を開催し、対応方法などを周知・研修しました。

（2）研修

- ・職員研修
BCP 訓練研修、虐待防止研修、感染予防研修を開催しました
認知症介護研修（実践者研修）を受講し、認知症の基礎知識を学びました。
- ・避難訓練
年 2 回、避難訓練を行い、火災や地震等の災害時における対応方法を確認しました。

（3）委員会

- ・事業所内で、虐待防止委員会や感染予防委員会を実施

5. コストに関する取り組みについて

- ・物品購入については、常に在庫確認を行うよう伝達していたものの、意識が薄く確認を怠り、過剰発注が発生することがあり、発注前に再度確認を行うように徹底しました。
- ・レク用品や壁面装飾などの作品づくりにかかる材料費は、必要なものだけを発注するようにしました。
- ・水道光熱費の高騰により、節電、節水などコスト削減への取り組みを行いました。
施設設備や備品の故障を発見した際は、職員間で情報を共有し、修理の可否を検討した上で、可能な範囲で部品を購入し、コスト削減に努めました。

6. 事業の稼働について

- ・稼働目標：80.0%（月平均 24.0 名）、年間目標延べ人数：7,416 名
2024 年度は延べ 5,746 名（平均 18.4 名）にとどまり、稼働率は 61.1%でした。
- ・新規利用者の獲得に努め、毎月新規利用へつなげることができました。新規獲得以上に利用中止となるケースが多く、稼働目標に至ることができませんでした。廃止の主な理由としては、在宅から施設へ入居される方が多くみられました。
- ・目標未達成の大きな要因として、入院される方が多く見られることが挙げられます。
家族様、介護支援専門員と情報を密に収集し、入院状況・退院予定の把握をすることで退院後、短期間でサービスを再開できるよう調整を行いました。

- ・送迎範囲の拡大、重度利用者の受入、リフト浴への対応を強化し、新規利用者の獲得につなげることができました。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

		開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
2024年度	4月	26日	484人	18.6人／日	16（4）人	42（15）人	1.5
					58（19）人		
	5月	27日	528人	19.5人／日	16（4）人	43（13）人	1.4
					59（20）人		
	6月	25日	486人	19.4人／日	18（4）人	44（17）人	1.4
					62（21）人		
	7月	27日	545人	20.1人／日	19（4）人	44（15）人	1.5
					63（19）人		
	8月	27日	474人	17.5人／日	19（4）人	45（15）人	1.5
					64（19）人		
	9月	25日	490人	19.6人／日	18（4）人	44（18）人	1.4
					62（22）人		
	10月	27日	503人	18.6人／日	17（4）人	47（19）人	1.5
					64（23）人		
	11月	26日	446人	17.1人／日	15（4）人	45（17）人	1.3
					60（21）人		
	12月	24日	425人	17.7人／日	16（4）人	47（16）人	1.4
					63（20）人		
	1月	24日	443人	18.4人／日	15（3）人	42（15）人	1.5
					57（18）人		
	2月	24日	446人	18.5人／日	15（3）人	43（17）人	1.5
					58（20）人		
	3月	26日	477人	18.3人／日	15（3）人	44（17）人	1.6
					59（20）人		
	年度 合計	合計 308	延べ 5747人	年間平均 18.6人／日	199（45）人	530（194）人	平均 1.5
					729（242）人		

(2) 年齢別利用者数（2024年度末現在）

	64歳 以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳 以上	合計	平均年 齢(歳)
男	0	1	1	3	4	5	3	17	83.8
女	0	0	1	5	12	14	19	51	86.8
計	0	1	2	8	16	19	22	68	86.0
%	0	1%	3%	12%	24%	28%	32%	100	—

(3) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	3	1	3	1
要支援 2	9	3	1	2
要介護 1	11	4	3	2
要介護 2	5	2	3	4
要介護 3	0	0	1	2
要介護 4	0	2	0	3
要介護 5	1	0	0	2

(4) 利用者の生活状況 (2024 年度末現在)

食 事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	61	7	0	68	
移 動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	19	36	2	11	68
入 浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	24	39	5	68	
着 脱	自力	一部介助	全介助	計	
	19	44	5	68	
排 泄	自力	一部介助	全介助	計	
	47	16	5	68	
おむつ・リハ ビリパンツ等 使用	常時使用	夜間のみ使用	計		
	22	-	22		

(5) 年間の行事等 (2024 年度)

行事实施月及び行事名等		
4 月	音楽療法 (月 2 回 月・土)	壁面づくり (桜・菜の花)
5 月	音楽療法 (月 2 回 月・土)	壁面づくり (こいのぼり・兜) 橋南中学校 吹奏楽部演奏会
6 月	音楽療法 (月 2 回 月・土)	壁面づくり (かたつむり・雨・紫陽花) ピアノ演奏
7 月	音楽療法 (月 2 回 月・土)	壁面づくり (七夕・海・ひまわり・朝顔) ウクレレ演奏 ピアノ演奏
8 月	音楽療法 (月 2 回 月・土)	壁面づくり (ひまわり・朝顔) 橋南中学校吹奏楽部演奏会
9 月	音楽療法 (月 2 回 月・土)	壁面づくり (桔梗) ピアノ演奏
10 月	音楽療法 (月 2 回 月・土)	壁面づくり (ハローウィン・紅葉) ピアノ演奏・つ保育園交流会
11 月	音楽療法 (月 2 回 月・土)	壁面づくり (柿・コスモス・紅葉) ピアノ演奏

12 月	音楽療法（月 2 回 月・土） ポインセチア）	忘年会・壁面づくり（クリスマスツリー・ 忘年会・クリスマスイベント ピアノ演奏
1 月	音楽療法（月 2 回 月・土）	壁面づくり（正月）
2 月	音楽療法（月 2 回 月・土）	壁面づくり（節分） ギター演奏
3 月	音楽療法（月 2 回 月・土） 橋南中学校吹奏楽部演奏会	壁面づくり（ひな祭り）
備考	イベントボランティアの訪問による行事（ピアノ演奏・中学校交流会・つ保 育園交流会 ウクレレ演奏・ギター演奏）	

サテライト型八幡園グループホーム（認知症対応型共同生活介護）事業実績報告書

1. 2024年度の事業活動について

- ・利用者様が住み慣れた環境で穏やかに生活できるよう雰囲気づくりを行い、1ユニットの特性を活かした、在宅に近い環境づくりに留意しました。
- ・日々の生活の中で季節感を感じられるような行事を企画し、利用者様が自然な笑顔で過ごせる、明るい雰囲気づくりに努めました。
- ・個々のベストショットを撮影するため、自然な表情や笑顔、あるいは恥ずかしがりながらも一瞬見せる表情を記録として残しました。2か月ごとにフロア内の壁に行事写真を掲示し、ご家族様には面会時に写真をご覧いただき、利用者様の表情から日常の様子を感じ取っていただきました。
- ・空調管理により季節感が感じにくくなるため、気候や天候を見ながら近所への散歩を実施し、外気に触れることで気分転換を図るとともに、五感への刺激にもつながるよう取り組みました。また、行事を通じて季節感が伝わるよう、季節の歌や壁面飾り、四季折々の企画を実施しました。

2. サービス提供について

（1）機能訓練（リハビリテーション）について

- ・日々の日課として、テレビ体操や座位姿勢で実施できる運動を取り入れ、身体機能の維持に努めました。また、声を出して歌うことにより喉を開き、発声訓練を行うことで、嚥下機能の維持・向上にも努めました。
- ・天候や気候の良い日には、少人数で近隣を散歩し、気分転換と機能維持訓練を行いました。雨天時には施設内の廊下を往復して歩行訓練を実施しました。

（2）日中活動（アクティビティサービス）について

- ・余暇時間を活用し、季節の塗り絵や脳トレなど、短時間で達成可能な活動を提供しました。繰り返し行うことで、個々の能力の維持や興味の傾向を観察し、継続的に実施しました。
- ・唱歌や昭和歌謡を皆で歌うことで自然な発声を促し、脳の活性化につながるよう支援しました。

（3）認知症ケアについて

- ・職員会議において、利用者様の状況確認および認知症進行防止に向けた取り組みを、ケアプランに沿って検証しました。
- ・昼夜逆転の傾向が見られる方には、日中の離床時間を増やし、会話やレクリエーション、軽作業（洗濯物たたみ・食事の盛り付け等）を通じて役割を持っていただき、メリハリのある生活が送れるよう支援しました。
- ・認知症の進行や理解力の低下が見られる方には、丁寧な声かけを行いながら、一つのことを最後まで達成できるよう根気強く支援し、機能の維持に努めました。

（4）口腔・栄養管理について

- ・朝夕の口腔ケアを促し、習慣化を図りました。歯磨きや義歯の洗浄チェックを行うことで、口腔内を清潔に保つよう取り組みました。

- ・訪問歯科診療との連携を図り、外部受診が困難な方にも治療につなげることができ、早期治療の実施が可能となりました。また、ご家族の受診負担の軽減にもつながりました。
- ・食事前には口腔体操を実施し、誤嚥予防および口腔機能の維持に努めました。
- ・栄養管理については、毎月の体重測定や食事量の観察を行い、体重や食事量の減少傾向が見られる方には、管理栄養士と連携のうえ食事形態の変更を検討しました。状態変化や小さな兆候に気づいた際には、看護師および管理栄養士と情報を共有し、対策・改善を検討しました。

(5) 感染症対策について

- ・感染症については、流行時期に関係なく、日々の手洗いやうがいの励行を徹底し、風邪の流行時期には早期発見・早期対応を心がけました。発症時には看護師と連携を図り、重症化を防ぎながら早期受診等により対処しました。また、二次感染の防止にも努めました。
- ・外部からの訪問者（面会・業者等）については、来園記録の記載を継続して実施しました。面会についても、少人数・短時間での実施にご協力いただきました。

(6) 事故抑止について

- ・インシデント・アクシデントシートを活用し、事故の要因や対策について職員間で検証を行いました。事故の発生要因や対策を明確にし、検証を通じて再発防止に努めました。
- ・転倒や服薬ミス（落薬）については、事例を検証し、ケア方法の見直しや対応の仕方、注意点を職員間で共有し、再発防止に取り組みました。
- ・認知症の進行予防や身体機能の低下等にも配慮しながら、事故防止および危険性の明確化に努めました。日々変化する身体状態や認知症の進行については、ご家族とも情報を共有し、現状を把握していただくことで危険リスクへの理解を深めていただけるよう連携を図りました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事（デイサービス合同行事）

同一施設内での交流を再開し、音楽療法や外部ボランティアによる演奏会など、合同での行事にも参加しました。

(2) ユニット行事

- ① 施設内行事：入浴行事（菖蒲湯・柚子湯・変わり風呂〔桜・祝い風呂等〕）、創作活動・手芸（リース作り）
- ② 外出行事：お花見、津まつり見学等
※盆踊りは自治会より開催中止の連絡があり、参加できませんでした。
- ③ 不定期開催：利用者様の誕生会の実施
- ④ ヘアーカット：月1回、グループホームフロアにて実施

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

グループホーム運営会議開催：毎月第1水曜日に実施（年12回開催）

グループホーム運営推進会議開催：奇数月の第4水曜日に実施（年6回開催）

(2) 研修

グループホーム運営会議項目内に研修として勉強会を行う。

不定期研修：接遇研修、看護師講師により感染予防対策、火災・風水害・地震等災害想定

の避難誘導訓練

(3) 委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

グループホーム運営会議事項内にて報告及び検証

- ・事故防止委員会（インシデント・アクシデント）
- ・身体拘束適正化委員会（3ヶ月/回）
- ・感染予防対策委員会（不定期開催）
- ・虐待防止委員会
- ・行事委員会（毎月、運営会議内で企画立案・報告）
- ・業務継続計画（BCP）委員会

5. コストに関する取り組みについて

- ・節電対策については、不要な電力使用箇所をこまめに確認し、節電を呼びかけて実施しました。
 - ・空調の温度・湿度・換気に配慮し、利用者様が快適に過ごせるよう調整に努めました。
 - ・時間外労働については、職員間で協力し合い、極力業務時間内で対応できるよう努めました。
- また、空いた時間を活用して事務作業を行うなど、残業時間の削減にも取り組みました。

6. 事業の稼働について

稼働率 98.0%を目指し運営を行いましたが、結果的には93.1%と目標に至りませんでした。入院や退去に伴い、新規入居者が決定するまでの空室をすぐに対処できず期間が空いてしまったことが要因として挙げられます。しおりの里短期入居と連携を図り次期入居者の検討・確認を密に行うことができていなかった事、長期入院者期間の待機期間も稼働に影響をしました。

医療面ではしおり里クリニックとの連携が密となり、体調変化時に早期対応ができたため症状が重症化することなく対応ができました。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

区分	八幡園グループホーム	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	9	3,059
年間稼働率		93.1%

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

八幡園グループホーム					
区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	2	0	0	0	1
女	2	0	2	0	1
計	4	0	2	0	2
		4			

(3) 年齢別利用者数 (2024 年度末現在)

区 分		64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)
八幡園GH	男	0	0	0	0	0	1	0	1	86.0 歳
	女	0	0	0	1	1	4	2	8	86.8 歳
	計	0	0	0	1	1	5	2	9	86.7 歳
	%	－	－	－	11.1%	11.1%	55.6%	22.2%		－

(4) 在籍期間別利用者数 (2024 年度末現在)

区分		14 日以内	15 日～1 月	1～3 月	3～6 月	6 月～1 年	1～2 年	2 年以上	合計
八幡園GH	男	0	0	0	1	0	0	0	1
	女	0	0	1	0	1	0	6	8
	計	0	0	1	1	1	0	6	9
	%			11.1%	11.1%	11.1%		66.7%	

(5) 要介護度別利用者数 (2024 年度末現在)

区分	八幡園グループホーム	計
要介護 1	1	1
要介護 2	0	0
要介護 3	5	5
要介護 4	2	2
要介護 5	1	1
計	9	9
平均介護度	2.8	

(6) 認知度別利用者数 (2024 年度末現在)

区分	八幡園グループホーム	計
Ⅲ未満	2	2
Ⅲ以上	7	7
計	9	9

(7) 利用者の食事形態 (2024 年度末現在)

ア) 主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
八幡園GH	4	4	1	0	0	0	9

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
八幡園GH	3	2	4	0	0	0	9

(8) 利用者の生活状況 (2024 年度末現在)

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
八幡園GH	7	1	1	9

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
八幡園GH	2	4	2	1	9

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
八幡園GH	0	5	4	9

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
八幡園GH	2	4	3	9

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
八幡園GH	1	3	5	9

カ) おむつ使用（リハビリパンツ使用者）

区分	常時使用	夜間使用	計
八幡園GH	9	9	9

※リハパン使用なし 0名

※巻オムツ使用者 0名

(9) 2024 年度実施行事

行事实施月及び行事名等	
4 月	藤見と散歩（園外）／ 苺大福作り（園内）／ 季節の湯（桜湯）
5 月	こいのぼり作り（園内）／ 母の日バイキング（園内） ／ 季節の湯（菖蒲湯）
6 月	紫陽花見学（園外）／ 写真立て作り（園内） ／ タコなしタコ焼きパーティー（園内）
7 月	七夕行事（園内）／ 桃ゼリー作り（園内）／ モビール作り（園内）
8 月	暑中お見舞いハガキ（園内）／ 水羊羹作り（園内） ／ 季節の湯（マリン風呂）
9 月	スイカ割り（園内）／ 運動会（園内）／ さつま芋掘り（園内）
10 月	津まつり見学（外出）／ 昔ながらのケーキ作り（園内） ／ ハロウィン（園内）
11 月	おしゃれの日（園内）／ 抹茶ゼリー作り（園内） ／ クリスマスリース作り（園内）
12 月	クリスマス会（園内）／ クッキー作り（園内）／ 季節の湯（ゆず湯）
1 月	お正月イベント（園内）／ 鏡開き、ぜんざい作り（園内） ／ 季節の湯（祝い風呂）
2 月	節分行事（園内）／ ひな人形作り（園内）／ 季節の湯（椿湯）
3 月	ひなまつり（園内）／ ドライブ、梅見（園外）／ フルーチェ作り（園内）

備考	
----	--

津中部東地域包括支援センター事業実績報告書

1. 各支援業務について

(1) 総合相談支援業務

- ・津中部東地域包括支援センターが担当するエリアにおいて、自治会を通じてチラシ配布を行い、周知活動を実施しました。
- ・高齢者の相談に限らず、相談依頼があれば、自宅訪問を行い、状況を把握した上で、必要に応じて関係機関に繋げました。
- ・支援が途切れないよう、1ヶ月に1回、相談一覧票を用いて現時点での状況確認を行いました。
- ・サービスに繋がらない相談者に対して、必要に応じて見守り訪問や電話等を通じて状況確認を行いました。
- ・地域が主催するサロンに参加し、地域との関係性の構築、困りごとの把握、包括支援センターの周知を行いました。
- ・一人世帯実態把握調査票を使用して、地域の高齢者宅（今年度は南郊第一地区）を訪問し、包括支援センターの周知活動を行いました。

(2) 権利擁護業務

- ・定期的実施している出前講座では、資料を使用し、虐待における気づきのポイントや発見時の相談先などについての理解を深め、早期発見につながるよう説明しました。
- ・虐待が疑われるケースについては、関係機関と連携を取りながら状況把握を行い、迅速に対応しました。
- ・成年後見制度については、相談者に制度の説明を行い、成年後見サポートセンターと連携しながら対応しました。後見制度利用に至らない方には、日常生活支援自立支援事業を運営している社協と連携して対応しました。
- ・出前講座ではDVDを使用し、消費者被害についての理解を深めました。
- ・消費者被害については、事例を元に地域の民生委員に注意喚起を行いました。
- ・職員研修として、虐待に関する研修を実施しました。
- ・消費者被害が疑われるケースについても、関係機関と連携し、情報共有と対応を行っています。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ・小地域ケア会議を4回開催し、より良い支援の在り方について検討を行いました。
- ・エリア内の居宅介護支援事業所を参集し、ケアマネ交流会として、BCP作成後の取り組みについて意見交換を行いました。
- ・今年度は、地域ケアネットワーク会議を社会福祉協議会と共同で2回開催し、地域の関係者（医師、行政、社会福祉協議会、薬局、保健センター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、民生委員、地区社協、自治会長）に参加していただき、事例を用いて、支援方法や地域の見守りについてグループワークを行いました。
- ・重層的な課題や支援拒否、既存サービスでは対応できない困難事例については、定期的に訪問

を行い、必要に応じて関係機関と連携しました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築

- ・地域におけるネットワーク構築のため、月 1 回開催されている民生委員定例会に参加しました。
- ・協議体が月 1 回主催する地域サロンに参加し、地域の関係者（自治会長、小学校校長・教頭、民生委員、ボランティア団体、社協）とネットワークの構築および包括支援センターの周知を図りました。
- ・協議体の発足に向け、新たな地域のサロンに参加しました。また、地域の地区社協・民生委員・自治会長とともに地域課題に関する会議に出席し、地域との関係構築を図りました。

(5) 介護予防啓発事業

- ・「運動」「食事」「医療」などをテーマに出前講座を実施し、講話だけでなく脳トレや身体を使った体操も取り入れました。
- ・新たな団体に対しても出前講座を実施しました。
- ・生活・介護支援サポーターのフォローアップ研修として、防災に関する研修を 1 回開催しました。

(6) 在宅医療・介護連携推進機関との協働

- ・地域の医療機関と密に連携を取り、介護と医療の連携を図りました。
- ・在宅療養支援センター等が開催する研修会に参加し、多職種との連携を深めました。
- ・ACP については、「もしバナゲーム」を用いた職員研修を実施し、ACP の理解とその必要性について学びました。

(7) 生活支援コーディネーターによる社会基盤整備との協働

- ・年 6 回、生活支援コーディネーターと地域についての会議を行い、あわせて地域課題の把握に努めました。
- ・地域の協議体会議に参加し、包括支援センターと地域とのネットワーク構築を図りました。

(8) 認知症への総合的な支援

- ・認知症サポーター養成講座を 5 回開催しました。
- ・認知症サポーター養成講座では、チームオレンジの説明および認知症サポーターステップアップ講座の周知を行いました。
- ・ケースに応じて、認知症初期集中支援チームと連携し、支援を行いました。
- ・認知症地域推進員および認知症疾患医療センター等が、定期的に実施している研修会等に参加しました。

(9) 地域ケア会議の開催

- ・小地域ケア会議を 4 回開催し、関係者が集まり、情報を共有した上で、より良い支援の方向性について検討を行いました。
- ・地域ケアネットワーク会議を 3 回開催し、地域の関係者（医師、行政、社会福祉協議会、薬局、保健センター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、民生委員、地区社協、自治会長）にご参加いただき、事例を用いて支援方法や地域の見守りについてグループワークを実施しま

した。

- ・ケアマネジャーの自立支援に資する実践力の向上を目的として、地域ケア個別会議を3回開催しました。

(10) 介護予防・日常生活支援総合事業

- ・要支援認定者や事業対象認定者に対して様々な情報を提示し、サービスの選択ができるよう必要な援助を行いました。

(11) 介護予防ケアマネジメント業務

- ・委託居宅介護支援事業所に対し、給付管理およびケアプランのチェック、提出書類の管理を行いました。また、ケアマネジャーの後方支援として、サービス内容に関する問い合わせへの助言や指導も行いました。
- ・ケースに応じて職員がケアプランを作成し、必要に応じて状況の検討を行いました。

(12) その他

- ・市から提供される「一人暮らし実態調査票」を活用し、自宅訪問による状況確認と、津中部東地域包括支援センターの周知活動を行いました。
- ・生活・介護支援サポーターのフォローアップ研修として、防災に関する研修を1回開催しました

3. 利用実績

介護予防給付担当件数

(2024年度)

			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
委託 件数	支援 1	新規	10	3	6	7	10	6	3	12	7	9	9	6	88
		継続	148	150	150	149	151	158	158	158	163	164	163	164	1876
	支援 2	新規	8	10	2	4	5	12	6	10	6	6	9	12	90
		継続	177	182	192	177	184	190	195	203	204	202	200	209	2315
事業対象者		新規	0	0	1	2	2	2	1	0	0	0	0	0	8
事業対象者		継続	18	17	18	18	17	18	17	15	15	15	15	15	198
合 計			361	362	369	357	369	386	380	398	395	396	396	406	4575
直営 件数	支援 1	新規	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		継続	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	1	31
	支援 2	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	18
事業対象者		新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業対象者		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計			4	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	3	50
													総 数	4625	

介護予防給付委託内訳

(2025 年 3 月 31 日現在)

区分	支援区分	介護予防サービス計画				
		新規	継続	合計	委託総数	新規委託事業所数
委託件数	支援 1	88	1876	1964	4575	4
	支援 2	90	2315	2405		
	事業対象者	8	198	206		
直営件数	支援 1	1	31	32		
	支援 2	0	18	18		
	事業対象者	0	0	0		
合計		187	4438	4625		

年間相談対応件数

(2024 年度)

内容・形態/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
介護方法等	28	18	24	33	28	24	28	23	24	42	44	28	344
介護保険サービス	7	7	4	7	9	4	8	2	5	5	1	2	61
介護予防サービス	12	12	10	28	11	13	13	19	9	20	13	11	171
保健福祉サービス	1	0	2	0	0	0	0	2	2	1	0	0	8
ケアマネジメン等	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
虐待・権利擁護	1	2	1	1	2	3	0	2	0	2	1	1	16
医療	0	2	3	2	3	0	0	1	1	2	0	1	15
認知症	2	4	3	3	5	4	6	6	1	5	4	2	45
その他	13	12	11	11	13	8	6	9	7	8	13	2	113
合 計	64	57	59	85	71	56	61	64	49	85	76	47	774

2024 年度 社会福祉法人寿泉会
しおりの里特別養護老人ホーム 事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

- ・個別ケアの提供について、入居者様の思いに寄り添い、チームでの個別ケア提供を行いました
が、「24 時間シート」への反映はできませんでした。
- ・家族様との情報共有については、面会時や様々な連絡ツールを活用し、情報共有を図りました。
ただし、感染症流行時には面会を制限することもありました。
- ・看取りケアの実践については、医師や各職種とのカンファレンスを通じた情報共有や説明は実
施しましたが、アドバンス・ケア・プランニングの継続的な取り組みには至りませんでした。
- ・各部門の役割明確化については、各専門職が意見を出し合い、連携した対応ができました。

2. しおりの里特別養護老人ホームとしてのケア等への取り組み

(1) 介護部門

①入居者様お一人おひとりに合わせたケアを行います

- ・専門職への評価について、生活相談員又は介護支援専門員への依頼は実施しましたが、
対応に時間を要することがありました。

②情報の共有に努めます

- ・記録は残すことはできましたが、内容や記載方法にばらつきがあり、統一には至りません
でした。

③介護技術の向上に努めます

- ・専門職からのアドバイスの受け入れや職員同士の話し合いは、行えました。

④家族様へ入居者様の生活の様子の発信を行います

- ・面会時に日頃の様子は報告できましたが、面会に来られない家族様への情報発信が不十分
でした。

(2) 看護部門

①看護職員として、医療情報の集約、発信に努めます

- ・入居者様の健康状態を定期的に把握し、必要時には生活相談員・介護支援専門員・施設医師
へ報告・連携を行い、適切に病院受診につなげることができました。

②感染症対策の強化を図ります。

- ・マニュアルに基づき、状況に応じた柔軟な対応を行うことができました。

③看取りケアの充実に努めます。

- ・終末期の入居者様への対応については、施設医師と情報を共有しながら、他職種と連携して
実施しました。
- ・施設医師との面談を通じて、今後の方針を立てることができました。

(3) 機能訓練部門

①必要に応じて日常生活動作、身体機能、精神機能評価を行い、その人らしい生活が送れる
よう、多職種との連携を図り、アプローチを行います

- ・日常生活動作や身体・精神機能の評価を通じて、その人らしい生活を実現するために、多職

種と連携を図ることができました。

②安心・安全に過ごせるように環境設定やポジショニングを行います

- ・入居中も在宅生活を想定した環境づくりに配慮し、安全・安心な生活を支援するための環境評価と多職種によるアプローチを行いました

③現在行えている日常生活動作の継続が出来るように、その方にあった個別リハビリを実施します。

- ・移乗時の事故予防や入居者様・職員双方の安心感を高めるため、介助方法や環境設定に関する評価の必要性を認識しました。

(4) 栄養部門

①栄養状態の改善

- ・入居者様ごとの必要エネルギー量を算出し、嗜好に配慮した個別の食事提供を実施しました。褥瘡の発生時には、多職種と連携して対応を行いました。

②災害時の栄養管理

- ・災害に関する研修を通じて事前準備の重要性を再認識し、マニュアル整備や非常食の管理を継続することができました。
- ・防災委員会にも参加し、BCP（事業継続計画）の必要性についても全体で話し合いました。

③食の楽しみの提供

- ・食事を日常の楽しみと感じてもらえるよう、各ユニットと連携して工夫を行いました。
- ・行事食や誕生日カードの更新も行い、継続的な改善を図ることができました。

(5) 相談援助・ケアマネジメント部門

①入居者様及び家族様と情報共有し信頼関係の強化を図ります

- ・事故発生時には迅速な対応ができました。
- ・終末期対応においては、医師が家族様へ説明を行い、安心感を提供できました。
- ・入居者様および家族様の不安や思いを傾聴し、医師による細やかな説明と合わせて、安心して終末期を迎えられるよう支援を行いました。今後は、より丁寧なコミュニケーションが重要であると認識しました。

②多職種との連携強化に努めます。

- ・会議やその他の場を通じて、職種間での連携を図りました。

3. 行事の実施

(1) 施設全体行事

- ・しおりまつり 2024 を実施しました。

(2) ユニット行事

- ・季節感を感じていただくための行事は実施されましたが、内容が主におやつ作りに偏り、当初想定していた「聴く・観る」を中心とした企画は、十分に実施できませんでした
- ・合同行事等で撮影した写真を一部の居室に掲示し、一定の成果は見られました。一方で、全入居者様の写真を撮影するには至らず、家族様へのプレゼント対応にも限りがありました。
- ・行事委員会からの連絡が不十分だったため、計画されていた行事の一部が実施できませんでした。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	1 回/月	事業所の運営に関する内容
ユニット会議	1 回/月	職員の業務等に関する内容
介護 L・UL 会議	1 回/月	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	1 回/月	個別のケース、業務に関する内容
カンファレンス	2 回/月	個別ケアに関する内容
地域密着型サービス 運営推進会議	1 回/2 ヶ月	活動報告、地域連携推進に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症対策研修	24 回	細菌性・ノロウイルスによる食中毒について 医福塾、BCP
身体拘束・権利擁護 研修	14 回	権利擁護について 医福塾
事故防止研修	2 回	現場で起こりやすい事故と対策、 危険予知トレーニングについて
褥瘡対策研修	3 回	介護力向上について
看取り介護研修	2 回	看取り介護について
防災研修	4 回	非常災害時の対応について、避難訓練 BCP
コンプライアンス研修	2 回	事業計画、法令及びグループ内のルール遵守について
新卒・中途採用 職員研修	8 回	法令及びグループ内のルール遵守について 身体介助・心構え・介護スキルについて 情報の取り方・伝え方について 言葉の影響力について
生活歴作成研修	1 回	生活歴の記入方法について

※上記の施設内研修以外に、施設外研修及び WEB 研修へも参加しています。

(3) 委員会

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12 回（毎月）
衛生管理・感染症対策委員会	12 回（毎月）
事故防止委員会	12 回（毎月）
安全衛生委員会	12 回（毎月）
褥瘡予防委員会	12 回（毎月）

5. しおりの里における防災への取り組み

- ・防災用 DVD の視聴を通じて、災害に関する知識を深め、意見交換を行いました。
- ・地域密着型サービス運営推進会議において、自治会長や民生委員と災害時の受け入れ体制および施設への要望について意見交換を行いました。
- ・備蓄品の保管場所が不足していることから、新たに備蓄倉庫の設置を提案しました。

6. BCP（事業継続計画）における取り組み

- ・事業所内で、事業継続や早期復旧を目的とした研修および訓練を実施しましたが、施設全体での実施には至りませんでした。

7. 業務遂行における取り組み

①ハラスメント対策の強化

- ・会議や研修を通じて、何がハラスメントに該当するのかを伝え、周知を図りました。
- ・入居者様から性的な言動があった際には、職員間で対応方法等の情報共有を行うことができました。

②虐待の発生又はその再発を防止するための取り組み

- ・日頃の対応や言葉遣いの荒さなどから、その職員では対応が困難と判断した際には、別の職員が対応を交替し、必要に応じて指導も行いました。また、職員間で話し合い、虐待に繋がらないよう努めました。
- ・虐待を含む身体拘束について職員間で話し合う機会は増加しましたが、認識に差があることも感じられました。
- ・身体拘束権利擁護委員会では、センサーマットの使用状況について協議されましたが、ユニット会議等での議論は実施できませんでした

③5S の実践（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）

- ・不要物の仕分けや処分は実施されている一方で、収納の整頓には課題が残りました。
- ・物品配置の明記については、継続して実施できました。

④情報伝達力の向上

- ・連絡ノートを活用し、情報共有に努めました。しかし、「伝える・発信する」までで止まり、その後の対応が個人任せとなったため、伝達漏れが生じる場面もありました。

8. コストに関する取り組み

① 費用の発生に対しては、常に費用対効果の視点で検討します

- ・備品に不具合が生じた際は、まず修繕の可否を確認しました。
- ・物品の必要性を精査し、不要な支出の抑制に努めました。

②職員の乱暴な取扱いや不注意などによる破損をなくし、使用や操作方法、周辺環境の確認を行ったうえで、破損理由などを分析・共有し再発予防に努めます

- ・職員の乱暴な取扱いや不注意による破損は発生しませんでした。
- ・破損があった物品については、原因を分析し、修繕または新規購入を実施しました。
- ・使用・操作方法や周辺環境の確認し、再発防止に努めました。

③消耗品等の使用については、適正な使用を心掛けるとともに、在庫管理を適切に行い無駄のないようにしていきます

- ・オムツ業者と連携し、入居者様に応じた適切なパッド使用を継続しました。

- ・日用品については新たな発注業者を選定し、価格比較を行うことでコスト削減を図りました。
- ④光熱水費について、電気の消し忘れ、水道の出しっぱなし、冷暖房の適正な温度管理など、各自が無駄遣いを意識して節約に取り組みます
- ・電気の消し忘れや水道の出しっぱなし防止、冷暖房の適正温度管理を継続しました。
 - ・職員の意識向上により、光熱水費の削減につながりました。
- ⑤時間外勤務の削減のため、時間外勤務の原因を分析し業務の見直しなどを図ります
- ・業務内容と勤務時間の調整、人員配置の見直しを行いましたが、異動や退職の影響により時間外勤務は増加しました。

9. 事業所の稼働管理

- ・目標稼働率：98.0%に対し、年間累計稼働率：97.47%であり、目標値未達でした。
- ①入所順位を月1回見直し、次期入居者を確定します
- ・月1回の入所順位の見直しを継続的に実施しました。
 - ・次期入居予定者の家族様の都合により、入居時期が延長されるケースがありました。
 - ・複数の新規入居準備が重なった際、段取りがうまくいかず、入居に遅れが生じました。
 - ・年末年始を挟んだことにより、関係機関との連絡がスムーズに進まず、入居時期が遅延する要因となりました。
- ②入院者の状況を適宜確認し、家族様・医療機関との連携を密に行います
- ・本年度は5名の入院者が発生しましたが、退院許可後は速やかに調査を行い、最短での再入居調整を実施しました。
 - ・空室が発生した際には、速やかに次期候補者へ連絡し、できる限り短期間での入居につなげることができました。
 - ・短期入所事業所との連携は維持できていたものの、空室利用には至りませんでした。

10. 利用実績

(1) 入居者実績

区分	地域密着型特別養護老人ホーム	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	7,114	7,114
年間稼働率	97.47%	97.47%

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

地域密着型特別養護老人ホーム					
区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	2	1	0	0	0
女	6	4	1	0	0
計	8	5	1	0	0
		6			

(3) 年齢別入居者数（2024 年度末現在）

区 分		64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年 齢(歳)
老人ホーム 地域密着型 特別養護	男	0	0	0	0	1	2	2	5	88.6
	女	0	0	0	1	1	7	6	15	88.9
	計	0	0	0	1	2	9	8	20	88.9
	%	0	0	0	5	10	45	40	100	—

(4) 在籍期間別入居者数（2024 年度末現在）

区分		14 日以内	15 日～1 月	1～3 月	3～6 月	6 月～1 年	1～2 年	2 年以上	合計
老人ホーム 地域密着型 特別養護	男	0	0	1	0	0	2	2	5
	女	0	0	2	1	2	3	7	15
	計	0	0	3	1	2	5	9	20
	%	0	0	15	5	10	25	45	100

(5) 要介護度別入居者数（2024 年度末現在）

区分	地域密着型特別養護老人ホーム	計
要介護 1	0	0
要介護 2	0	0
要介護 3	2	2
要介護 4	11	11
要介護 5	7	7
計	20	20
平均介護度	4.25	4.25

(6) 認知度別入居者数（2024 年度末現在）

区分	地域密着型特別養護老人ホーム	計
Ⅲ未満	4	4
Ⅲ以上	16	16
計	20	20

(7) 入居者の食事形態（2024 年度末現在）

ア) 主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	4	9	7	0	0	0	20

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	1	12	6	1	0	0	20

(8) 入居者の生活状況（2024 年度末現在）

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	11	1	8	20

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
計	0	0	7	13	20

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	0	7	13	20

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	0	10	10	20

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	0	11	9	20

カ) おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
計	10	3	13

(9) 2024 年度実施行事

行事实施月及び行事名等	
4 月	おやつ作り（羊羹）
5 月	和菓子バイキング
6 月	季節の花のちぎり絵
7 月	七夕（短冊作り）
8 月	夏のフルーツジュース
9 月	和菓子バイキング
10 月	おやつ作り（栗きんとん）、しおりまつり 2024
11 月	紅葉の映像の視聴及びおかき飲食
12 月	クリスマス会
1 月	お汁粉を食べよう
2 月	チョコレートフォンデュを食べよう
3 月	フルーツサンド作り
備考	

2024年度 社会福祉法人 寿泉会
しおりの里第1短期入所生活介護事業所事業実績報告書

1. 2024年度の事業活動について

- ・利用者様（クライアント）の目線で寄り添うことを意識しました。
- ・毎月事業計画に対し、振り返りを行うことで気づきを意識し、共有を図りました。
- ・自身を客観的に見るための取り組みや、自身のおかれた状況の分析をする習慣を促す必要があります。

2. サービス提供について

（1）機能訓練（リハビリテーション）について

- ・短期利用者様および長期利用者様でニーズの違いはあるが、依頼のあった内容に対応しました。
- ・必要に応じて日常生活動作、身体機能、精神機能の評価を行い、その人らしい生活が送れるように多職種との連携を図ることができました。
- ・入所利用中、在宅での環境を取り入れ、「安心」「安全」に過ごせるよう、環境面への評価を行い、多職種連携にてアプローチすることができました。

（2）日中活動（アクティビティサービス）について

- ・音楽を取り入れた活動を継続的に実施しました。
- ・ユニット共有フロアの設えについて、意見を持ち寄り、環境の調整を行いました。
- ・職員能力としても、複数エリアを受け持つことのできる職員に限られるため、自己評価・他者評価を踏まえた評価制度が必要と感じました。

（3）認知症ケアについて

- ①グループのカンファレンスを活用し、アセスメントの向上に努めました。
- ②リーダー、ユニットリーダーを中心に事例に参加し、知識・技術の向上に努めました。
- ③向上した知識を実践できるよう、「共有」の意識を高めました。

（4）栄養管理、食の楽しみについて

① 栄養状態の改善

- ・入居者様各々の必要エネルギー量を算出し、嗜好に添い、一人ひとりに合った食事の提供をすることができました。
- ・褥瘡発生者には、多職種と連携を図り対応しました。

② 災害時の栄養管理

- ・マニュアルの整備と非常食の管理は都度行いました。また、防災対策委員会に出席し、今後もマニュアルの内容を更新しながら継続していきます。
- ・BCP（事業継続計画）の必要性を施設全体で話し合い、災害時の栄養や食事提供をどうすれば行っていけるか検討する必要があると感じました。

（5）感染症対策について

- ①委員会を毎月開催し、季節に応じた対応を検討して実施しました。
- ②新型コロナウイルスの施設クラスター事例の研修を行いました。
- ③職員の感染対策における意識啓発を行いました。

(6) 事故抑止について

- ・報告用紙を更新し、インシデントとアクシデントの区分を設けて取り組みました。

3. 行事の実施について

ユニット行事

- ①年間行事の計画に沿って実施しました。
- ②おやつ作りやデコレーション作業など、「触れる」「におう」「味わう」を体験していただきました。
- ③季節を感じられる行事を一部実施することができました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	1 回/月	事業所の運営に関する内容
ユニット会議	1 回/月	職員の業務等に関する内容
介護 L・UL 会議	1 回/月	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	1 回/月	個別のケース、業務に関する内容
カンファレンス	2 回/月	個別ケアに関する内容
地域密着型サービス 運営推進会議	1 回/2 ヶ月	活動報告、地域連携推進に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症対策研修	24 回	細菌性・ノロウイルスによる食中毒について 医福塾、BCP
身体拘束・権利擁護 研修	14 回	権利擁護について 医福塾
事故防止研修	2 回	現場で起こりやすい事故と対策、 危険予知トレーニングについて
褥瘡対策研修	3 回	介護力向上について
看取り介護研修	2 回	看取り介護について
防災研修	4 回	非常災害時の対応について、避難訓練、BCP
コンプライアンス研修	2 回	事業計画、法令及びグループ内のルール遵守について
新卒・中途採用 職員研修	8 回	法令及びグループ内のルール遵守について 身体介助・心構え・介護スキルについて 情報の取り方伝え方について 言葉の影響力について
生活歴作成研修	1 回	生活歴の記入方法について

※上記の施設内研修以外に、施設外研修及び WEB 研修へも参加しています。

(3) 委員会

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12回（毎月）
衛生管理・感染症対策委員会	12回（毎月）
事故防止委員会	12回（毎月）
安全衛生委員会	12回（毎月）
褥瘡予防委員会	12回（毎月）

5. しおりの里における防災への取り組み

- ・防災用DVDを視聴し、災害についての知識を深め、意見交換を実施しました。
- ・地域密着型サービス運営推進会議にて、自治会長や民生委員と、災害時の受け入れ体制や施設への要望について意見交換を実施しました。
- ・備蓄品の保管場所が不足していることから、新たに備蓄倉庫の設置を提案しました。

6. BCP（事業継続計画）における取り組み

- ・事業所内で、事業継続や早期復旧を目的とした研修および訓練を実施しましたが、施設全体での実施には至りませんでした。

7. 業務遂行における取り組み

①ハラスメント対策の強化

- ・会議や研修で、何がハラスメントに該当するのかを伝えて周知しました。
- ・入居者様から性的な言動があった際、職員間で対応方法等の情報を共有することができました。

②虐待の発生又はその再発を防止するための取り組み

- ・日頃の対応や言葉遣いの荒さなどから、その職員では対応が困難と判断した際には、別の職員が対応を交替し、指導しました。また、職員間で話し合い、虐待につながらないように努めました。
- ・虐待を含む身体拘束について、職員間で話し合う機会が増加しましたが、職員間で認識の差を感じるがありました。
- ・身体拘束権利擁護委員会では、センサーマットの使用状況については協議されましたが、ユニット会議等での議論は実施できませんでした。

③5Sの実践（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）

- ・不要物の仕分けや処分は実施されているが、収納の整頓が課題です。
- ・物品配置の明記は継続して実施できました。

④情報伝達力の向上

- ・連絡ノートを活用し、情報共有に努めました。しかし、伝えること、発信することまでで、その後は個人任せになってしまい、伝達漏れが生じました。

8. コストに関する取り組みについて

- ①営繕担当者により、必要な修理や物品の購入が速やかに行える体制が整いました。
- ②必要物品の検討においては、各職員が費用対効果を意識し、購入の必要性を理解できるよう努め、各職員の了解を求めるプロセスの精度を高めました。
しかし、経年劣化以外の修理も多数発生しました。取り扱いにおいて、基本的な「モノを大切に使用する」という初心に立ち返り、使用できる期間の延長に努めます。
- ③福祉用具のメンテナンスを定期的に行うことで、福祉用具の破損の減少に努めました。
- ④不要照明の消灯、エアコンのON/OFFに努めました。

9. 事業の稼働について

- ①コロナウイルスを含む感染症の影響で利用キャンセル等がありましたが、空床情報を発信することで、新規の依頼につながりました。
- ②職員の採用を積極的に実施していますが、職員を一定数確保することができていません。
- ③職員のライフステージで発生し得る出来事（結婚、出産、転居）に対し、計画的に体制を確保できる仕組みの構築が必要です。
- ④事業の運営において、適切な設備の活用および多職種の専門的評価の活用を行いました。
- ⑤各職種、各ユニットの連携に課題が残りました。

10. 利用実績データ（短期入所事業分）

（1）利用者実績

区分	第1短期入所生活介護事業所	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	11,056	11,056
年間稼働率	75.7%	75.7%

（2）年齢別利用者数（2024年度末現在）

区 分		64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)
第一短期事業所	男	0	1	4	10	20	13	24	72	85.1
	女	2	0	4	13	13	32	50	114	87.2
	計	2	1	8	23	33	45	74	186	86.4
	%	1.1%	0.5%	4.3%	12.4%	17.7%	24.2%	39.8%	100%	—

（3）要介護度別延べ利用者数

区分	第1短期入所生活介護事業所	計
要支援1	0	0
要支援2	0	0
要介護1	756	756
要介護2	2,638	2,638
要介護3	3,785	3,785
要介護4	2,471	2,471
要介護5	1,406	1,406
計	11,056	11,056
平均介護度	3.1	3.1

(4) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0
要介護 1	11	8	2	6
要介護 2	11	18	7	11
要介護 3	16	25	5	6
要介護 4	16	17	6	3
要介護 5	7	6	1	4

(5) 認知度別利用者数 (2024 年度末現在)

区分	第 1 短期入所生活介護事業所	計
Ⅲ未満	52	52
Ⅲ以上	134	134
計	186	186

2024 年度 社会福祉法人寿泉会
しおりの里第2 短期入所生活介護事業所 事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

- ・利用者様（クライアント）の目線で寄り添うことを意識しました。
- ・毎月事業計画に対し、振り返りを行うことで気づきを意識し、共有を図りました。
- ・自身を客観的に見るための取り組みや、自身が置かれた状況の分析をする習慣を促す必要があります。

2. サービス提供について

（1）機能訓練（リハビリテーション）について

- ・各職種と連携を図り、評価を実施し、環境設定を中心に介入しました。体制に応じた配置のため、介護スタッフによる生活リハビリが中心となりました。
- ・多職種連携において、委員会や適時評価を行う中で連携が図れました。メール機能を活用し対応しました。

（2）日中活動（アクティビティサービス）について

- ①各ユニットで季節感を味わうための準備等、食に関する行事を行いました。
- ②定期的に開催する体操、音楽を取り入れ実施しました。
- ③担当職員を選任し実施することにより、継続性が高まりました。

（3）認知症ケアについて

- ①グループのカンファレンスを活用し、アセスメントの向上に努めました。
- ②主任、ユニットリーダーを中心に事例に対して積極的に参加でき、知識、技術の向上に努めました。
- ③向上した知識を実践できるよう、「共有」の意識を高めました。

（4）栄養管理について

① 栄養状態の改善

- ・入居者様各々の必要エネルギー量を算出し、嗜好に添い、一人ひとりに合った食事の提供をすることが出来ました。
- ・褥瘡発生者には、多職種と連携を図り対応しました。

② 災害時の栄養管理

- ・今年度は能登半島地震もあり、災害時の準備をしておくことの大切さが研修等を通して理解出来ました。
- ・マニュアルの整備と非常食の管理は都度行いました。また、防災対策委員会に出席し、今後もマニュアルの内容を更新しながら継続していきます。
- ・BCP（事業継続計画）の必要性を施設全体で話し合い、災害時の栄養や食事提供をどうすれば行っていけるのか検討する必要があると感じました。

(5) 感染症対策について

- ①委員会を毎月開催し、季節に応じた対応を検討して実施しました。
- ②感染症に伴う施設クラスター事例の研修を行いました。
- ③職員の感染対策における意識啓発を行いました。

(6) 事故抑止について

- ・報告用紙を更新し、インシデントとアクシデント区分を設けて取り組みました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

- ・しおりまつり 2024 を実施しました。

(2) 事業所、ユニット行事

- ・事業計画に基づいて月々の行事を実施しました。季節のおやつ作りや季節のご飯を提供し、入居者様に四季折々の食べ物を楽しんでいただけました。また、季節行事の実施やユニット内に季節飾りの装飾をし、季節を感じていただけました。
- ・暖かい時期には、散歩や外出行事を実施しました。外に出て季節の草花を実際に見て、新鮮な空気を吸って楽しんでいただきました。
- ・普段の様子や行事の際に写真を撮ることを意識して、入居者様のいろいろな表情を残すことが出来ました。また、誕生日に贈る色紙にも活用しました。
- ・人員や天候の関係で実施出来なかった行事もありました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	1 回/月	事業所の運営に関する内容
ユニット会議	1 回/月	職員の業務等に関する内容
介護 L・UL 会議	1 回/月	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	1 回/月	個別のケース、業務に関する内容
カンファレンス	4 回/月	個別ケアに関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症対策研修	24 回	細菌性・ノロウイルスによる食中毒について 医福塾、BCP
身体拘束・権利擁護 研修	14 回	権利擁護について 医福塾
事故防止研修	6 回	緊急時対応、事故の発生・予防・再発予防について
褥瘡対策研修	3 回	介護力向上について
看取り介護研修	2 回	看取り介護について
防災研修	4 回	非常災害時の対応について、避難訓練、BCP
コンプライアンス研修	2 回	事業計画、法令及びグループ内のルール遵守について

研修名	開催回数	内容
新卒・中途採用 職員研修	8 回	法令及びグループ内のルール遵守について 身体介助・心構え・介護スキルについて 情報の取り方伝え方について 言葉の影響力について
生活歴作成研修	1 回	生活歴の記入方法について

※上記の施設内研修以外に、施設外研修及び WEB 研修へも参加しています。

(3) 委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12 回（毎月）
安全衛生委員会	12 回（毎月）
事故防止委員会	12 回（毎月）
衛生管理・感染症対策委員会	12 回（毎月）
行事・広報委員会	12 回（毎月）
褥瘡予防委員会	12 回（毎月）

5. しおりの里における防災への取り組み

- ・防災用 DVD を視聴し、災害についての知識を深め、意見交換を行いました。
- ・地域密着型サービス運営推進会議で、自治会長や民生委員と災害時の受け入れ体制および施設への要望について意見交換を行いました。
- ・備蓄品の保管場所が不足していることから、新たに備蓄倉庫の設置を提案しました。

6. BCP（事業継続計画）における取り組み

- ・事業所内で、事業継続や早期復旧を目的とした研修や訓練を実施しましたが、施設全体としての実施には至りませんでした。

7. 業務遂行における取り組み

①ハラスメント対策の強化

- ・会議や研修で、何がハラスメントに該当するのかを伝え、周知しました。

②虐待の発生又はその再発を防止するための取り組み

- ・虐待防止に向けて、職員一人ひとりが「どのような行為が虐待にあたるか」を主体的に考え、意見交換を行う機会を設けることができました。
- ・研修を通して日常の関わりを見直し、職員の意識の向上が図られました。

③5 S の実践（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）

- ・整理整頓の 3 ステップ（分ける・捨てる・整える）を基本に、日々の業務の中で意識的に取り組むことができました。
- ・ケアサポーターを中心に、入居者様の生活環境を整え、維持に努めました。

④情報伝達力の向上

- ・社内メールの活用が定着し、必要な情報を共有できる体制を整えることができました。
- ・各ユニットでは伝達ノートを活用し、情報の周知・共有を図ることができました。

8. コストに関する取り組みについて

- ①営繕担当者により、必要な修理、物品の購入が速やかに行えるようになりました。
- ②必要物品の検討にあたっては、職員が費用対効果を意識し、購入の必要性を理解しやすくするために、合意を得るプロセスの精度を高めました。
しかし、経年劣化以外の修理も多数発生しており、物品の取扱いにおいては、基本に立ち返り「モノを大切に使用する」という意識を再確認し、使用期間の延長に努めていきたいと考えています。
- ③福祉用具のメンテナンスを定期的に行うことで、福祉用具の破損の減少に努めました。
- ④不要照明の消灯、エアコンのON/OFFに努めました。

9. 事業の稼働について

- ①新型コロナウイルスの感染拡大により、罹患による急な利用キャンセルや、逆に利用追加など、通常業務とは異なる状況となりましたが、営業活動および空床情報の発信により新規の依頼につながりました。
また、併設の特別養護老人ホームと連携し、空床の有効利用を行うことができました。
- ②職員の採用を積極的に行っていますが、一定数の職員を確保できていません。
- ③職員の結婚、出産、転居などのライフイベントに備え、計画的に体制を確保できる仕組みの構築が必要です。
- ④事業の運営において、適切な設備の活用及び多職種の専門的評価の活用をしました。
- ⑤各職種との連携に課題が残りました。

10. 利用実績データ（短期入所事業分）

（1）利用者実績

区分	しおりの里第2短期入所 生活介護事業所	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	8,480	8,480
年間稼働率	77.4%	77.4%

（2）年齢別利用者数（2024年度末現在）

区 分		64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均 年齢 (歳)
第2短期 事業所	男	0	2	3	6	13	12	15	51	85.2
	女	1	1	3	2	11	25	60	103	89.2
	計	1	3	6	8	24	37	75	154	87.8
	%	0.6%	1.9%	3.9%	5.2%	15.6%	24.0%	48.7%	100%	—

(3) 要介護度別延べ利用者数

区 分	第 2 短期入所生活介護事業所	計
要支援 1	47	47
要支援 2	63	63
要介護 1	974	974
要介護 2	1, 143	1, 143
要介護 3	2, 784	2, 784
要介護 4	2, 500	2, 500
要介護 5	969	969
計	8, 480	8, 480
平均介護度	3. 1	3. 1

(4) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	2	0	0	0
要支援 2	2	0	0	0
要介護 1	5	8	2	8
要介護 2	10	5	10	10
要介護 3	17	12	7	7
要介護 4	16	6	2	8
要介護 5	6	7	1	3

(5) 認知度別利用者数 (2024 年度末現在)

区分	第 2 短期入所生活介護事業所	計
Ⅲ未満	69	69
Ⅲ以上	85	85
計	154	154

2024 年度 社会福祉法人寿泉会
しおりの里居宅介護支援事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

- ・利用者様の意向を聞き取り、希望に沿えるように提案し、利用者様が自分らしい生活を継続できるようマネジメントを行い、可能な限りその地域で心身共に豊かな日常生活が継続できるよう支援に努めました。
- ・言葉遣いや身だしなみに配慮し、不快感を与えないように接遇を意識して業務に取り組みました。
- ・研修会、地域交流会、ケア会議などに積極的に参加し、地域との交流を深め、職員の資質向上を図ることができました。
- ・特定事業所集中減算の適用を受けないよう、公正かつ中立的な情報提供と選択の自由を尊重し、提出に必要な書類を整えるよう努めました。

2. 居宅介護支援事業所としてサービス提供等への取り組み

(1) 相談援助

利用者様やご家族様、近隣住民、地域関係者からのさまざまな相談に対して、丁寧に対応し、状況を把握した上で、必要なサービスや制度の紹介を行いました。また、地域関係者や関係機関と連携し、課題の解決に向けて適切な支援を実施しました。

(2) ケアマネジメント部門

利用者様やご家族様に丁寧に説明を行い、十分にご理解いただいた上で、適切なケアマネジメントを進めました。利用者様のニーズに応えるため、アセスメントやモニタリングの技術向上に努め、ケアマネジメントを行ううえで各自が自覚を持ち、誠意をもって対応しました。

(3) 苦情対応

居宅介護支援において、苦情に至らないよう、各自が自覚を持ち、対応しました。万が一、苦情が発生した場合は、以下の手順で対応しました。

- ・事実を確認し、問題の本質を明確にしました。
- ・解決策を提示し、問題解決に向けた代替案を提案しました。
- ・お詫びと感謝を伝え、フォローを通じて組織内でクレームを共有しました。
- ・真摯に対応し、ご理解いただけるよう誠心誠意、組織として対応しました。

3. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ・おおむね週 1 回の「特定事業所加算」に関する会議が開催できました。
(事例検討、地域の事業所や社会資源、保険医療・福祉の諸制度、利用者の動向などを検討)
- ・居宅介護支援事業所の会議を月 1 回、開催できました。
(実績報告、外部研修伝達、勉強会、その他検討事項)

(2) 研修

- ・制度・ケアマネジメントに関する向上のための勉強会：月 1 回、全職員参加しました。
- ・介護支援専門員の総合相談会に全職員が参加することができました。

- ・外部研修への参加：月1～2回の参加ができませんでした。
- ・自己評価：年1回、全職員参加できました。
- ・他法人と事例検討会：年1回、全職員参加することができました。
- ・虐待に関する研修・教育：年1回実施できました。
- ・業務継続計画に基づき、必要な研修を年1回実施しました。
- ・身体的拘束対策に関する研修を年1回実施しました。

(3) 委員会

- ①虐待防止のための対策委員会（年2回）に参加しました。
- ②感染症の予防およびまん延防止のための対策委員会（年2～6回）には、参加できないことがありました。
- ③防災委員会（年4回）は、施設で開催されないことがあり、4回すべての実施はできませんでした。
- ④身体的拘束対策委員会（年4回）には、参加することができました。

4. しおりの里における防災への取り組み

- ①安全で確実な避難ができるよう、しおりの里全事業所が連携し、自然災害を想定した総合防災訓練（消火訓練・通報訓練・避難誘導訓練等）を消防署と連携して年1回実施しました。
- ②利用者の心身機能、居住環境に配慮した防火・防災意識の向上に努めました。
- ③火災等の防止対策として、消防用設備等の自主点検を年1回実施できませんでした。
- ④大規模災害時における地域等（地域住民・地元企業）との協働による応援体制に向けた検討を進めることができました。

5. 業務遂行における取り組みについて

①ケアマネジメントの質、向上

- ・毎週の会議や勉強会の実施、情報収集、外部研修の参加、地域ケア会議への参加、多職種連携等を行うことができました。

②ハラスメント対策の強化

- ・利用者に対して安定した居宅介護支援サービスを提供するため、職場や訪問先（利用者宅）における、性的な言動や優越的な関係を背景とした言動を防止するよう努めました。また、業務上必要かつ相当な範囲を超える行為により、従業員の就業環境が害されることのないよう対策に取り組みました。
- ・ハラスメント防止のための指針を整備しました。
- ・ハラスメント防止を徹底する定期的な研修（年1回以上）を実施しました。

③虐待の発生又はその再発を防止するための取組

- ・虐待防止のための対策や理解を深めるための委員会を開催し、定期的に検討・共有を図りました。
- ・虐待の防止のための指針を整備いたしました。
- ・虐待対応の担当者を定め、職員への啓発を行いました。

④身体的拘束等の適正化への取組

- ・身体的拘束等の適正化のための指針を整備いたしました。
- ・身体的拘束等の適正化のための担当者を定め、職員への啓発を行いました。

6. コストに関する取り組みについて

- ・裏紙利用や、両面印刷などの工夫で、コピー用紙の節約、経費削減に努めました。
- ・ICT、デジタル化、業務効率化に関する研修に参加し、ICT 技術を活用できるように努め、ペーパーレス化に努めました。
- ・ガソリン、時間の節約のため、効率よく訪問することに努めました。
- ・業務を効率化し、時間内に終わることができるよう努めました。実現には至りませんでした。
- ・通話内容を整理してから話すことで、電話代の削減に努めました。

7. 事業所の稼働について

- ・地域の住民や病院等へのアピール、各包括支援センターや各サービス事業所（研修等での積極的な顔つなぎ）に働きかけ、新規利用者の確保に努めました。
- ・計画作成件数は 35 件／名を目標として取り組みました。また、職員の雇用形態に応じて、目標件数を明確に設定しました。

8. 利用実績データ（居宅介護支援事業所分）

（1）利用者実績

月 区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	人数 (%)	前年比 (%)
予 防	支援 1	13	14	11	9	9	10	10	10	10	8	9	9	122 人	7	73
	支援 2	13	12	13	12	12	11	12	12	15	17	17	19	165 人	9	81
介 護	介護 1	50	58	52	54	54	53	55	52	50	47	42	41	608 人	34	92
	介護 2	40	42	43	47	46	45	48	45	48	46	44	42	536 人	30	128
	介護 3	16	16	15	14	12	13	14	15	16	13	11	15	170 人	9	97
	介護 4	14	19	14	12	11	10	8	9	9	11	9	11	137 人	8	69
	介護 5	2	3	3	3	3	3	3	4	7	8	5	5	49 人	3	71
合 計		148	164	151	151	147	145	150	147	155	150	137	142	1,787 人	100	95

（2）年齢別利用者数（2024 年度末現在）

区 分	64 歳 以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳 以上	合計	平均年齢 (歳)
男	2	1	2	3	12	8	13	41	84.0

女	1	0	3	6	9	18	35	72	87.2
計	3	1	5	9	21	26	48	113	86.2
%	3%	1%	4%	8%	19%	23%	42%	100%	—

(3) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	7	1	2	1
要支援 2	6	9	1	4
要介護 1	19	12	3	8
要介護 2	8	17	2	17
要介護 3	1	9	1	5
要介護 4	5	1	2	6
要介護 5	1	1	0	3

(4) ご契約状況等 (2024 年度)

新規契約理由		解約理由			継続中
		ADL 改善	入院	その他	
退院支援	0	0	0	0	0
認知症支援	0	0	0	0	0
看取り	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	4	20
合計	0	0	0	4	20

(5) 年間の研修・会議開催状況 (2024 年度)

実施月及び研修・会議等	
4 月	居宅会議、朝会議、地域交流会
5 月	居宅会議、朝会議
6 月	居宅会議、朝会議、多職種連携研修 運営指導研修、
7 月	居宅会議、朝会議、地域ケア会議
8 月	居宅会議、朝会議、多職種連携研修
9 月	居宅会議、朝会議、BCP 研修、外部研修
10 月	居宅会議、朝会議、地域ケア会議、地域交流会
11 月	居宅会議、朝会議、BCP 研修、地域交流会
12 月	居宅会議、朝会議、地域交流会、多職種連携研修
1 月	居宅会議、朝会議、スーパーバイザー研修、地域交流会
2 月	居宅会議、朝会議、他事業所と事例検討、外部研修
3 月	居宅会議、朝会議

2024 年度 社会福祉法人寿泉会
しおりの里デイサービスセンター事業報告書

1. 事業所の運営方針について

- ① 認知症や疾患等を有する利用者様に対して、日々の体調面や精神面の変化を把握し、ご家族様や関連事業所等へ速やかに報告することで信頼関係を築き、安心してサービスを受けていただけるよう取り組みました。
- ② 食事や入浴の提供については、その日の利用者様の体調やご要望に応じて、柔軟に対応しました。
- ③ 生活機能の維持・向上を目的に個別機能訓練を実施し、ADL の維持・向上に努めました。
- ④ 介護および看護業務の見直しを行い、現状に適した職員配置により、利用者様へのサービス提供を行いました。
- ⑤ 認知症デイサービスと連携し、専門職による支援が必要と判断された利用者様については、一般デイサービスから認知症デイサービスへの移行を行いました。

2. しおりの里デイサービスセンター事業所としての取り組み

- (1) 利用者様確保へ向けた取り組み
 - ・居宅介護支援事業所から依頼があった時には、利用者様の状況を専門職と確認させて頂いた上で、ご利用頂くよう取り組みを行いました。
 - ・急な追加利用等には、柔軟に対応し承りました。
- (2) 職員の資質向上へ向けた取り組み
 - ・デイサービス会議において規律等を周知し、必要性を鑑み個々に面談を行いました。
- (3) サービスの質の向上へ向けた取り組み
 - ・デイサービス会議において、事業の方向性や取り組みの内容について周知し理解を得ました。
 - ・多職種で連携して自立に向けた適切なケアを行い、チームで一貫したサービスを提供しました。
 - ・在宅生活が張り合いある豊かな日々を継続し、精神面・身体面において援助させて頂きました。

3. 主な行事の実施

- ・季節を感じ、楽しめるイベントの提供を意識して実施しました。
- ・本物（実物）に「触れる」「におう」「聴く」「味わう」「観る」といった五感を使って楽しめる企画を立案・実施しました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
デイサービス会議	毎月開催	デイサービスの業務に関する内容
介護会議	毎月開催	デイサービスの業務に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
三重県認知症介護研修 (基礎研修・実践者研修)	定期開催	認知症介護に係る基礎的な内容

5. コストに関する取り組み

- ・必要物品（特に消耗品）の購入に際しては、あらかじめ担当者を決め、在庫管理を把握し、節度ある使用に努めました。
- ・業務の見直しと効率化を図り、残業の削減に努めました。

6. 事業所の稼働管理

日々の実績をパソコンに入力し、稼働状況を確認しました。そのデータを基に運営状況確認シートおよび月次報告シートを作成し、月ごとの売上状況を把握しながら業務を行いました。

7. 利用実績データ（通所事業所分）

（1）利用者実績

		開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
2024 年度	4月	30日	451人	15.0人／日	（ 20 ）人	（ 41 ）人	1.8
					（ 61 ）人		
	5月	31日	462人	14.9人／日	（ 16 ）人	（ 44 ）人	1.8
					（ 60 ）人		
	6月	30日	478人	15.9人／日	（ 19 ）人	（ 46 ）人	1.8
					（ 65 ）人		
	7月	31日	503人	16.2人／日	（ 17 ）人	（ 48 ）人	1.9
					（ 65 ）人		
	8月	31日	499人	16.1人／日	（ 17 ）人	（ 49 ）人	1.9
					（ 66 ）人		
	9月	30日	500人	16.7人／日	（ 18 ）人	（ 49 ）人	1.8
					（ 67 ）人		
	10月	31日	490人	15.8人／日	（ 16 ）人	（ 47 ）人	1.8
					（ 63 ）人		
	11月	30日	444人	14.8人／日	（ 17 ）人	（ 47 ）人	1.7
					（ 64 ）人		
	12月	29日	429人	14.8人／日	（ 15 ）人	（ 44 ）人	1.8
					（ 59 ）人		
	1月	28日	406人	14.5人／日	（ 16 ）人	（ 45 ）人	1.8
					（ 61 ）人		
	2月	29日	392人	14.0人／日	（ 14 ）人	（ 44 ）人	1.9
					（ 58 ）人		
	3月	31日	438人	14.1人／日	（ 11 ）人	（ 44 ）人	1.9
					（ 55 ）人		
年度 合計	合計 361日	延べ 5,492人	年間平均 15.2人／日	（196）人	（548）人	平均 1.8	
				（ 744 ）人			

（2）年齢別利用者数（2024年度）

	64歳 以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳 以上	合計	平均年 齢(歳)
男	0	0	1	3	10	11	7	32	85.3
女	1	2	0	5	7	26	27	68	87.0
計	1	2	1	8	17	37	34	100	86.2
%	1.0%	2.0%	1.0%	8.0%	17.0%	37.0%	34.0%	100%	—

(3) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	0	0	0	2
要支援 2	3	0	0	2
要介護 1	5	5	2	5
要介護 2	5	10	0	6
要介護 3	2	1	2	1
要介護 4	0	2	1	1
要介護 5	0	0	0	0

(4) 利用者の生活状況 (2024 年度末現在)

食 事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	54	1	0	55	
移 動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	19	26	7	3	55
入 浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	18	32	5	55	
着 脱	自力	一部介助	全介助	計	
	20	30	5	55	
排 泄	自力	一部介助	全介助	計	
	30	22	3	55	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	1	1	2		

(5) 年間の行事等 (2024 年度)

行事実施月及び行事名等		
4 月	花見	季節感を感じていただきながら、他の利用者様とのコミュニケーションを増やし、親睦を深めていただきました。
6 月	あじさい見学	紫陽花の時期に合わせて外出行事を企画し、2 つの異なるコースをご用意して選んでいただきました。
8 月	夏祭り	縁日をイメージしたイベントでは、盆踊りやかき氷、ヨーヨー釣りにご参加いただきました。
10 月	しおりまつり ケーキバイキング	「しおりまつりウィーク」としてケーキバイキングを実施し、和菓子のケーキやミルクプリンが好評でした。
12 月	おやつ作り (和菓子)	特に人気のあった和菓子 2 種類 (白玉ぜんざい、芋きんとん) を、参加希望者につけていただき、その出来上がった和菓子を皆様に召し上がりました。
1 月	初詣	社会参加として初詣やランチを楽しみました。お参り後にはカフェタイムを実施し、懐かしい唱歌の演奏に合わせて身体を揺らしていただきました。
2 月	演奏会 (歌と演奏)	懐かしい唱歌での演奏で、リズムにあわせて身体を揺らしておりました。童謡や唱歌、歌謡を参加者皆様とともに歌っていただきました。
3 月	花見 (外出)	春の到来を告げる散策と外食企画を楽しんで頂きました。
備考	日々の取り組みとして、体操、季節の唱歌、ホワイトボードを使用した脳トレーニングを実施しています。 また、外部ボランティアや慰問者の受け入れも行いました。	

2024 年度 社会福祉法人寿泉会
しおりの里認知症対応型通所介護事業報告書

1. 認知症対応型通所介護事業所の運営方針について

利用者様にゆったりとした雰囲気を提供し、個々の能力に応じて「できること」「わかること」に着目しながら、ケアの在り方をその都度見直して支援を行うことで、認知症の進行予防と意欲の向上に努めました。

2. 認知症対応型通所介護事業所としての取り組み

(1) 利用者様確保へ向けた取り組み

急な依頼や調査契約、追加利用のご依頼等に迅速に対応しました。
また、他事業所との情報交換や報告をこまめに行うことで、信頼関係の構築に努めました。

(2) 職員の資質向上へ向けた取り組み

事故報告書（ヒヤリハット）による検証や、会議等での検討、職員行動規範の周知徹底により、職員の資質向上に努めることができました。
また、施設内外の研修については、オンライン研修を有効に活用し受講しました。

(3) サービスの質の向上へ向けた取り組み

認知症ケアの確立に向けて、一般型通所介護と連携し、専門職の介入が必要な方を認知症デイサービスへ移行することで、より良い支援の提供に取り組みました。
また、他の事業所、ご家族様、担当介護支援専門員と情報交換および共有を行い、ご利用者様の状態に変化があった場合には、ケア内容の見直しを行うなど、連携を図りながら個々に応じたサービス提供に努めました。

3. 主な行事の実施

- ・季節を感じ、楽しめるイベントの提供を意識して実施しました。
- ・「触れる」「におう」「聴く」「味わう」「観る」といった五感で本物（実物）を楽しめる企画を立案・実施しました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
D S 会議	毎月開催	D S の業務に関する内容
介護会議	毎月開催	D S の業務に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
三重県認知症介護研修 (基礎研修・実践者研修)	定期開催	認知症介護に係る基礎的な内容

5. コストに関する取り組み

- ・必要物品（特に消耗品）の購入に際しては、あらかじめ担当者を決めて在庫管理を把握し、節度ある使用を心がけました。
- ・業務の見直しと効率化を図り、残業の削減に努めました。

6. 事業所の稼働管理

日々の実績をパソコンに入力し、稼働状況を確認しました。そのデータを基に、運営状況確認シートおよび月次報告シートを作成し、月々の売上状況を把握しながら業務を行いました。

7. 利用実績データ（通所事業所分）

（1）利用者実績

		開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
2024 年度	4月	26 日	203人	7.8人／日	(3)人	(18)人	2.3
					(21)人		
	5月	27 日	212人	7.9人／日	(3)人	(18)人	2.3
					(21)人		
	6月	25 日	197人	7.9人／日	(3)人	(18)人	2.3
					(21)人		
	7月	27 日	201人	7.4人／日	(4)人	(17)人	2.3
					(21)人		
	8月	27 日	166人	6.1人／日	(5)人	(14)人	2.3
					(19)人		
	9月	25 日	167人	6.7人／日	(6)人	(14)人	2.1
					(20)人		
	10月	27 日	181人	6.7人／日	(6)人	(16)人	2.0
					(22)人		
	11月	26 日	170人	6.5人／日	(6)人	(16)人	2.0
					(22)人		
	12月	24 日	151人	6.3人／日	(5)人	(14)人	2.0
					(19)人		
	1月	24 日	152人	6.3人／日	(5)人	(14)人	1.9
					(19)人		
	2月	24 日	164人	6.8人／日	(6)人	(16)人	2.1
					(22)人		
	3月	26 日	191人	7.3人／日	(6)人	(18)人	2.1
					(24)人		
	年度 合計	合計 308 日	延べ 2,155人	年間平均 7.0人／日	(58)人	(193)人	平均 2.1
					(251)人		

（2）年齢別利用者数（2024年度）

	64歳 以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳 以上	合計	平均年 齢(歳)
男	0	0	0	0	4	1	5	10	88.1
女	0	0	1	2	5	9	11	28	87.1
計	0	0	1	2	9	10	16	38	87.4
%	0.0%	0.0%	2.6%	5.3%	23.7%	26.3%	42.1%	100%	—

(3) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0
要介護 1	0	3	0	3
要介護 2	0	3	1	6
要介護 3	0	3	1	2
要介護 4	0	0	0	1
要介護 5	0	0	0	1

(4) 利用者の生活状況 (2024 年度末現在)

食 事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	18	5	1	24	
移 動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	11	9	0	4	24
入 浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	3	15	6	24	
着 脱	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	3	15	6	24	
排 泄	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	13	7	4	24	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	0	2	2		

(5) 年間の行事等 (2024 年度)

行事实施月及び行事名等		
4 月	花見	季節感を味わっていただきながら、他者とのコミュニケーションの機会を増やし、親睦を深めていただきました。
6 月	あじさい見学	紫陽花の時期には外出行事を企画し、2 つの異なるコースを準備して参加者に選んでいただきました。
8 月	夏祭り	縁日をイメージした行事では、盆踊りやかき氷、ヨーヨー釣りにご参加いただきました。
10 月	しおりまつり ケーキバイキング	「しおりまつり Week」としてケーキバイキングを実施し、和菓子のケーキやミルクプリンが好評でした。
12 月	おやつ作り (和菓子)	特に人気のあった和菓子 2 種 (白玉ぜんざい・芋きんとん) は、参加希望者の皆様に調理していただき、完成した和菓子を一緒に召し上がっていただきました。
1 月	初詣	社会参加の一環として、初詣やランチ外出を楽しみました。お参りの後は、カフェタイムも設けました。
2 月	演奏会 (歌と演奏)	懐かしい唱歌の演奏に合わせて身体を揺らし、童謡や歌謡曲を皆様と一緒に歌っていただきました。
3 月	花見 (外出)	春の訪れを感じながらの散策や外食企画も、楽しんでいただきました。
備考	日々の取り組みとして、体操や季節の歌の歌唱、ホワイトボードを使用した脳トレを毎日実施しております。 認知症対応型デイサービスでは、作業療法士が利用者様に合わせたメニューを作成し、認知症に特化したリハビリ (調理訓練、園芸、手芸、脳トレ等) を行っております。 また、外部ボランティアや慰問者の受け入れも実施しました。	

2024 年度 社会福祉法人寿泉会
しおりの里広域型特別養護老人ホーム 事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

- ・個別ケアの提供について、入居者様の思いに寄り添い、チームでの個別ケア提供を行いました
が、「24 時間シート」への反映はできませんでした。
- ・家族様との情報共有について、面会時や様々な連絡ツールを活用し、情報共有を図りました。
ただし、感染症流行時には面会を制限することもありました。
- ・看取りケアの実践について、医師や各職種とのカンファレンスを通じた情報共有や説明は実施
したが、アドバンスケアプランニングの継続的な取り組みには至りませんでした。
- ・各部門の役割明確化について、各専門職が意見を出し合い、連携した対応ができました。

2. しおりの里広域型特別養護老人ホームとしてのケア等への取り組み

(1) 介護部門

①入居者様一人一人の能力に応じた介護サービスの提供に努めます

- ・入居者様の状態に変化があった際は、社内メールを活用して他職種への迅速な情報共有を行
いました。
- ・排泄データを年 2 回収集・分析し、それに基づいたパッドの適切な選定を実施しました。

②情報共有に努めます

- ・社内メールの活用により、多職種間での円滑な連携を図ることができました。
- ・職員は施設内外の研修に積極的に参加し、介護に関する知識の向上を図りました。
- ・重度化した入居者への対応として、ユニット内および浴室にて移乗用シートを使用し、
入居者様・職員双方の負担軽減に努めました。

③介護能力の向上を図ります

- ・重度化や看取りといった対応が多く発生しましたが、各専門職との連携によりケアの統一が
図れました。
- ・人員が不足している場面が多く、新人職員への丁寧な指導に十分な時間を確保できなかった
点が課題として残りました。

(2) 看護部門

①感染症の予防、啓蒙に努め、他職種を初め情報発信に努めます

- ・感染予防に関しては、施設医師の指示のもと対応を実施しました。
- ・他職種への情報発信にも努め、連携体制の強化を図りました。

②看護会議の定期開催（1 回/月）を継続し、適宜業務の見直し及び精査を行います

- ・月 1 回の看護会議の定期開催を目標としていましたが、業務の都合や看護職員の招集の難し
さから、開催が困難な状況が続きました。今後は会議の開催方法や参加の工夫も検討し、継
続的な業務の見直しと共有が行える体制づくりを進めます。

③看取り看護の充実を図り、ケアを実施いたします

- ・看取り看護においては、入居者様一人ひとりの想いを尊重しながら、対応を行うことが
できました。
- ・多職種との連携を重視し、家族様ともコミュニケーションを取りながら支援を実施しま

した。

(3) 機能訓練部門

①必要に応じて日常生活動作、身体機能、精神機能評価を行います

- ・入居者様全員の状態を把握し、必要に応じて日常生活動作や身体・精神機能の評価を実施しました。
- ・嚥下機能や精神・認知機能に関しては、多職種との連携のもとで対応しました。

②日常生活動作が継続して行えるように、個別リハビリ及び環境調整の実施をいたします

- ・入居者様一人ひとりに対し、適切な個別機能訓練計画書を作成し、継続的に支援を行いました。
- ・ティルト式車椅子やマット類など備品の数に限りがあり、適切な環境を提供しきれない場面も見られました。

③入居者様の希望される生活を送っていただけるよう、他職種との連携を強化いたします

- ・入居者様が望む生活の実現に向け、カンファレンスや専門職チームなどを通じて、他職種との連携を強化しました。

(4) 栄養部門

①栄養状態の改善

- ・入居者様ごとの必要エネルギー量を算出し、嗜好に配慮した個別食の提供を実施しました。褥瘡の発生時には、多職種と連携して対応をしました。

②災害時の栄養管理

- ・災害に関する研修を通じて事前準備の重要性を再認識し、マニュアル整備や非常食の管理を継続しました。
- ・防災委員会にも参加し、BCP（事業継続計画）の必要性についても全体で話し合いました。

③食の楽しみの提供

- ・食事を日常の楽しみと感じてもらえるよう、各ユニットと連携して工夫を実施しました。
- ・行事食や誕生日カードの更新も行い、継続的に改善を図ることができました。

(5) 相談援助・ケアマネジメント部門

①入居者様、家族様と情報共有し、信頼関係の強化を図ります

- ・各計画書（施設サービス、リハビリ、栄養）の説明を実施しました。
- ・事故や苦情発生時には迅速に報告を行い、専門職と共有したうえで、再発防止に向けた支援内容を入居者様および家族様に説明しました。
- ・基本的な情報共有の取り組みは継続できた一方で、看取りに関する一部のケースで振り返りが実施できず、また日々の状態報告や面談・連絡の頻度が前年より減少したことから、家族様に不安を与える場面もありました。

②多職種と連携強化に努めます

- ・サービス担当者会議の実施に加え、日々の記録やアセスメント、モニタリングを通じて情報収集を行い、必要な情報を各専門職へ適切に提供しました。
- ・専門職による評価や指示があった際には、介護職員や看護職員へ速やかに伝達し、支援内容の見直しを図るなど、連携体制の強化に努めました。

3. 行事の実施

(1) 施設全体行事

- ・しおりまつり 2024 を実施しました。

(2) ユニット行事

- ・各ユニットにおいて毎月の行事計画を立て、クリスマスやひな祭りなどの季節行事では、飾りつけにも力を入れ、入居者様に季節感を楽しんでもいただくことができました。
- ・職員も一緒に参加し、ユニットごとの特色を活かした工夫ある行事を企画・実施することができました。
- ・人員体制の都合により、毎月の行事開催が難しかったユニットもありました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	1 回/月	事業所の運営に関する内容
ユニット会議	1 回/月	職員の業務等に関する内容
介護 L・UL 会議	1 回/月	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	1 回/月	個別のケース、業務に関する内容
カンファレンス	4 回/月	個別ケアに関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症対策研修	24 回	細菌性・ノロウイルスによる食中毒について 医福塾、BCP
身体拘束・権利擁護 研修	14 回	権利擁護について 医福塾
事故防止研修	6 回	緊急時対応、事故の発生・予防・再発予防について
褥瘡対策研修	3 回	介護力向上について
看取り介護研修	2 回	看取り介護について
防災研修	4 回	非常災害時の対応について、避難訓練、BCP
コンプライアンス研修	2 回	事業計画、法令及びグループ内のルール遵守について
新卒・中途採用職員 研修	8 回	法令及びグループ内のルール遵守について 身体介助・心構え・介護スキルについて 情報の取り方伝え方について 言葉の影響力について
生活歴作成研修	1 回	生活歴の記入方法について

※上記の施設内研修以外に、施設外研修及び WEB 研修へも参加しています。

(3) 委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12 回（毎月）

安全衛生委員会	12 回（毎月）
事故防止委員会	12 回（毎月）
衛生管理・感染症対策委員会	12 回（毎月）
行事・広報委員会	12 回（毎月）
褥瘡予防委員会	12 回（毎月）

5. しおりの里における防災への取り組み

- ・机上訓練を実施し、避難経路や消防設備の位置・使用方法についての再確認を行い、職員間で防災意識の共有を図りました。
- ・毎月 1 回の自主点検を実施し、防災設備周辺の整理整頓や、緊急時の取り出しやすさの確保に努めました。
- ・消防署と連携した総合防災訓練は計画されていたものの、今年度は実施に至りませんでした。
- ・屋内消火栓の使用訓練や非常放送設備を活用した訓練も実施できませんでした。

6. BCP（事業継続計画）における取り組み

- ・事業所内において、事業継続や早期復旧を目的とした研修および訓練は実施しましたが、施設全体を対象とした実施には至りませんでした。

7. 業務遂行における取り組み

①ハラスメント対策の強化

- ・会議や研修で、何がハラスメントに該当するのかを伝えて周知しました。

②虐待の発生又はその再発を防止するための取り組み

- ・虐待防止に向けて、職員一人ひとりが「どのような行為が虐待にあたるか」を主体的に考え、意見交換の機会を設けることができました。
- ・研修を通して日常の関わりを見直し、職員の意識の向上が図れました。

③5 S の実践（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）

- ・整理整頓の 3 ステップ（分ける・捨てる・整える）を基本に、日々の業務の中で意識的に取り組みました。
- ・ケアサポーターを中心に、入居者様の生活環境を整え、維持に努めました。

④情報伝達力の向上

- ・社内メールの活用が定着し、必要な情報を共有できる体制が整いました。
- ・各ユニットでは伝達ノートを活用し、情報の周知・共有を図ることができました。

8. コストに関する取り組み

① 費用の発生に対しては、常に費用対効果の視点で検討します

- ・備品に不具合が生じた際は、まず修繕の可否を確認しました。
- ・物品の必要性を精査し、不要な支出の抑制に努めました。

②職員の乱暴な取扱いや不注意などによる破損をなくし、使用や操作方法、周辺環境の確認を行ったうえで、破損理由などを分析・共有し再発予防に努めます

- ・職員の乱暴な取扱いや不注意による破損は発生しませんでした。
- ・破損があった物品については、原因を分析し、修繕または新規購入を実施しました。

- ・使用・操作方法や周辺環境の確認し、再発防止に努めました。

③消耗品等の使用については、適正な使用を心掛けるとともに、在庫管理を適切に行い無駄のないようにしていきます

- ・オムツ業者と連携し、入居者様に応じた適切なパッド使用を継続しました。
- ・日用品については新たな発注業者を選定し、価格比較を行うことでコスト削減を図りました。

④光熱水費について、電気の消し忘れ、水道の出しっぱなし、冷暖房の適正な温度管理など、各自が無駄遣いを意識して節約に取り組みます

- ・電気の消し忘れや水道の出しっぱなし防止、冷暖房の適正温度管理を継続しました。
- ・職員の意識向上により、光熱水費の削減につながりました。

⑤時間外勤務の削減のため、時間外勤務の原因を分析し業務の見直しなどを図ります

- ・入居者様の状態を含め、業務に合わせた勤務時間に変更し、サービス提供できる人員配置に努めました。

9. 事業所の稼働管理

- ・目標稼働率：98%に対し、年間累計稼働率：97.51%であり、目標には達成できませんでした。
- ・月1回の入所順位見直しを実施し、待機上位者への意向確認を継続しました。
- ・入院者の状況も適宜確認し、家族様・医療機関との連携を図り、退院後の最短での受け入れに努めました。
- ・退居から次期入居までの空床期間をさらに短縮するために、候補者への意向確認を実施しました。

10. 利用実績

(1) 入居者実績

区分	しおりの里広域型 特別養護老人ホーム	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	17,793	17,793
年間稼働率	97.51%	97.51%

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

しおりの里広域型特別養護老人ホーム					
区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	7	6	1	0	0
女	12	14	0	0	0
計	19	20	1	0	0
		21			

(3) 年齢別入居者数（2024 年度末現在）

区 分		64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)
特別 広域型 養護老人 ホーム	男	0	0	1	0	3	3	4	11	88.2
	女	0	1	2	0	8	9	16	36	87.9
	計	0	1	3	0	11	12	20	47	88.0
	%	0	2.1	6.4	0	23.4	25.5	44.7	100	—

(4) 在籍期間別入居者数（2024 年度末現在）

区分		14 日以内	15日～1月	1～3 月	3～6 月	6月～1年	1～2 年	2年以上	合計
特別 広域型 養護老人 ホーム	男	1	0	1	2	2	4	1	11
	女	0	0	1	6	4	10	15	36
	計	1	0	2	8	6	14	16	47
	%	2.1	0	4.3	17	12.8	29.8	34	100

(5) 要介護度別入居者数（2024 年度末現在）

区分	しおりの里広域型特別養護老人ホーム	計
要介護 1	0	0
要介護 2	0	0
要介護 3	1	1
要介護 4	19	19
要介護 5	27	27
計	47	47
平均介護度	4.55	4.55

(6) 認知度別入居者数（2024 年度末現在）

区分	しおりの里広域型特別養護老人ホーム	計
Ⅲ未満	1	1
Ⅲ以上	46	46
計	47	47

(7) 入居者の食事形態（2024 年度末現在）

ア) 主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	9	16	16	4	0	2	47

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	10	12	15	8	0	2	47

(8) 入居者の生活状況（2024 年度末現在）

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	20	11	16	47

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
計	4	3	13	27	47

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	0	22	25	47

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	5	18	24	47

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	4	18	25	47

カ) おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
計	20	27	47

(9) 2024 年度実施行事

行事实施月及び行事名等	
4 月	テラスでティータイム・箱の中身はなんだろう？ゲーム
5 月	柏作りとフラワーボックス作り・関東風桜餅
6 月	散歩・足湯
7 月	足湯
8 月	パフェ作り・パンケーキアイス添え・ゼリーおやつ作り
9 月	敬老会・足湯
10 月	しおりまつり 2024
11 月	散歩
12 月	クリスマス喫茶
1 月	ほほえみ通信・白玉ぜんざい
2 月	クレープ恵方巻・チョコパフェ
3 月	ひな祭り
備考	

2024年度 社会福祉法人寿泉会
万葉の里老健事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

2024 年度の稼働率は 89.89%で、目標を達成することができませんでした。新規契約者数は 59 件ありましたが、新型コロナウイルスの影響に加え、入院や退所があったご利用者へのフォローが早期に行えず、稼働率の上昇にはつながりませんでした。

今後は、居宅介護支援事業所や医療機関への営業活動を継続し、入所・退所の時期管理にも注力することで、稼働率の維持を図っていきます。また、待機者の確保を行い、退所と入所のタイミングを調整できるような運営サイクルの構築を目指してまいります。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

ご利用者のニーズに合わせて、在宅や施設での生活継続を目標に、心身機能やご希望に沿ったリハビリプログラムを作成しております。日常生活が過ごしやすくなるよう、環境の調整も行っております。また、ご利用者の心身機能を評価し、その内容をリハビリ実施計画書に反映させるとともに、ご家族への情報提供も行いました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

ご利用者の心身の状態やご本人の意向を尊重しながら、季節を感じられるような企画を立案し、日中活動や余暇活動を提供しました。

(3) 認知症ケアについて

認知症への理解を深め、ご利用者の行動観察を通じて「できること」「わかること」に着目し、行動範囲の拡大やニーズの把握に努め、サービスへ反映してまいりました。

(4) 口腔・栄養管理について

ご利用者の嚥下機能を評価し、個々に適した食事形態を提供しております。また、食に関する行事などを通じて、食欲の向上につながるよう環境の整備を行いました。褥瘡のあるご利用者については、褥瘡委員会と連携し、必要に応じて栄養補助食品の提供も実施しました。便秘対策としては、水分補給の促し、食物繊維の摂取強化、栄養補助食品の活用などを行いました。

(5) 感染症対策について

感染衛生管理委員会を月 1 回開催し、事業所内における感染症対策の取り決めや職員研修を実施しました。

(6) 事故抑止について

インシデント・アクシデント報告の内容を整理し、チームで対策・防止策を検討しました。また、事故防止委員会においても、事故を未然に防ぐための勉強会を実施しました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

月	行事名
9月	秋祭り

(2) ユニット行事

月	行事名
4月	花見
5月	端午の節句
6月	七夕飾り作り
7月	七夕
9月	敬老会
10月	運動会
12月	忘年会
1月	
2月	節分
3月	ひなまつり

サークル活動（月2回）実施。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

①運営会議（月1回）：管理者および専門職の代表者が出席し、施設運営全般について協議する
会議

②CS・ES会議（顧客満足・従業員満足会議）（月1回）：利用者の満足度（CS）および職員の
満足度（ES）の向上を目的とした会
議

③サービス担当者会議（月1回）：施設内の関係職種による情報共有およびサービス内容の検討
を行う会議

④介護L・UL会議（月1回）：ユニットリーダー職以上を対象に、介護業務の質の向上を目的
とした会議

⑤介護会議（月1回）：事業所内の介護に関する全般的な課題や取り組みについて協議する会議

⑥看護会議（月1回）：事業所内における看護業務の課題や改善点について話し合う会議

⑦入所前カンファレンス（随時）：各部署の代表者が参加し、入所後のケア方針や支援内容を事
前に確認・共有する会議

⑧インシデント・アクシデントカンファレンス（随時）：各チームメンバーにより、発生したイ
ンシデントやアクシデントの内容を検
証し、個別の対応策を検討する会議

(2) 研修

①感染症に係る研修（年2回）：感染症の予防およびまん延防止を目的とした研修

- ②コンプライアンス研修（年１回）：法令遵守に関する知識と意識向上を目的とした研修
 - ③事故防止に関する研修（年２回）：事故の発生を未然に防ぐための知識や対応力を高める研修
 - ④権利擁護（身体拘束・人権）に関する研修（年１回）：ご利用者の人権擁護に関する知識や対応力を深める研修
- その他、生涯研修等、外部研修への参加も行っています。

(３) 委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

- ①身体拘束委員会（月１回）：身体拘束に関する方針や事例について検討
- ②安全衛生委員会（月１回）：職員の安全確保および健康障害の予防に関する対策を検討
- ③事故委員会（月１回）：ヒヤリハット事例を含めた事故の予防および再発防止策を検討
- ④褥瘡防止委員会（月１回）：褥瘡の予防および再発防止策を検討
- ⑤防災委員会（月１回）：施設内の防火管理や地震・災害等への防災対策について検討
- ⑥行事委員会（年５回）：行事の立案および実施に関する内容を企画・運営
- ⑦感染衛生管理委員会（月１回）：新型コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ、食中毒等に関する感染症予防やまん延防止のための啓発活動、マニュアルの見直し等を実施
- ⑧権利擁護虐待防止委員会（年２回）：ご利用者の権利擁護および虐待防止に関する課題について検討

５．コストに関する取り組みについて

- ・施設内の機器等の経年劣化に伴い、修理や買い替えについて法人と相談しながら対応しました。
- ・水道の使用状況を見直すことで、水道料金を約16万円削減することができました。
- ・おむつやパッドの選定・使用方法を見直し、ご利用者に合った適切なものを提供するとともに、必要性や使用量を精査し、無駄の削減に努めました。

６．事業の稼働について

- ・2024年度の稼働率は89.89%でした。
- ・稼働率を維持するために待機者の確保を行い、退所時期と入所時期を適切に調整できる体制を整えてまいります。

７．利用実績

(１) 利用者実績

区分	老健万葉の里
延利用者数	31,908
年間稼働率	89.89%

(２) 入退所状況（再入所を含む。）

区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	23	9	14	6	1
女	49	10	17	7	2

計	72	19	31	13	3
		66			

(3) 年齢別利用者数 (2024 年度末現在)

区 分		64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)
老健万葉の里	男	0	0	1	3	2	9	6	21	86.3
	女	0	0	1	3	9	14	45	72	89.7
	計	0	0	2	6	11	23	51	93	89.1
	%	0	0	2.2	6.5	11.8	24.7	54.8	100	—

(4) 在籍期間別利用者数 (2024 年度末現在)

区分		14日以内	15日～1月	1～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年以上	合計
老健万葉の里	男	0	1	3	3	4	2	3	16
	女	3	4	8	8	11	17	26	77
	計	3	5	11	11	15	19	29	93
	%	3.2	5.4	11.8	11.8	16.1	20.4	31.2	100

(5) 要介護度別利用者数 (2024 年度末現在)

区分	老健万葉の里
要介護1	12
要介護2	22
要介護3	29
要介護4	22
要介護5	8
計	93
平均介護度	2.91

(6) 認知度別利用者数 (2024 年度末現在)

区分	老健万葉の里
Ⅲ未満	62
Ⅲ以上	31
計	93

(7) 利用者の食事形態 (2024 年度末現在)

ア) 主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	21	28	40	2	0	2	93

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
計	14	43	33	2	0	2	93

(8) 利用者の生活状況 (2024 年度末現在)

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	79	8	6	93

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
計	2	30	39	22	93

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
計	7	59	27	93

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	30	41	22	93

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
計	32	35	26	93

カ) おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
計	20	23	43

(9) 2024 度実施行事

行事实施月及び行事名等	
4 月	花見
5 月	端午の節句
6 月	七夕飾り作り
7 月	七夕
8 月	
9 月	秋祭り、敬老会
10 月	運動会
11 月	
12 月	クリスマス会、忘年会
1 月	
2 月	節分
3 月	ひなまつり
備考	いきいき活動サークル (月 1 回)、味わいサークル (月 1 回)

2024年度 社会福祉法人寿泉会
万葉の里短期入所療養介護事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

2024 年度も、2023 年度と同様に新型コロナウイルスの影響によりキャンセル等が見られました。例年どおり営業活動を行いました。新規利用者数は 19 件（うちグループ内 6 件）にとどまり、前年の 11 件（うちグループ内 4 件）と比較して増加はあったものの、定期利用に結びつかない単発利用が多く、目標値には到達しませんでした。

また、定期利用者の老健施設への入所が重なったことも、稼働率の低下につながった要因と考えられます。

2. サービス提供について

（1）機能訓練（リハビリテーション）について

ご利用者のニーズに応じ、在宅や施設での生活維持を目標に、心身機能およびご本人の希望に沿ったリハビリプログラムを作成しました。日常生活をより快適に過ごせるよう環境調整を行うとともに、心身機能の評価をリハビリ実施計画書に反映させ、ご家族への情報提供も行いました。

（2）日中活動（アクティビティサービス）について

ご利用者の心身の状態やご本人の意向を尊重しながら、季節感を取り入れた企画を立案し、日中活動や余暇活動を提供しました。

（3）認知症ケアについて

認知症に対する理解を深めた上で、行動観察を通じてご利用者の「できること」「わかること」に着目し、行動範囲の拡大とニーズの把握に努め、サービスに反映させました。

（4）口腔・栄養管理について

ご利用者の嚥下機能を評価し、個々に適した食事形態を提供しました。また、食に関する行事を実施することで食欲増進につながる環境づくりを行っています。褥瘡があるご利用者には、褥瘡委員会と連携して栄養補助食品の提供を実施しました。便秘改善に向け、水分補給の促進や食物繊維の強化、栄養補助食品の提供も行っています。

（5）感染症対策について

感染衛生管理委員会を月 1 回開催し、事業所内において感染症対策に関する取り決めや研修を実施しました。

（6）事故抑止について

インシデント・アクシデント報告の内容を整理・分析し、チームで対策・防止策を検討しました。また、事故防止委員会では事故の未然防止を目的とした勉強会を開催しました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

月	行事名
9 月	秋祭り

(2) ユニット行事

月	行事名
4 月	花見
5 月	端午の節句
6 月	七夕飾り作り
7 月	七夕
9 月	敬老会
10 月	運動会
12 月	忘年会
1 月	
2 月	節分
3 月	ひなまつり

サークル活動（月 2 回）実施しています。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ①運営会議（月 1 回）：管理者および専門職の代表者による、施設運営に関する会議
- ②CS・ES 会議（月 1 回）：顧客満足（CS）および従業員満足（ES）に関する会議
- ③サービス担当者会議（月 1 回）：施設内での情報共有および検討を行う会議
- ④介護 L・UL 会議（月 1 回）：ユニットリーダー職以上が参加する介護内容に関する会議
- ⑤介護会議（月 1 回）：事業所内の介護内容に関する会議
- ⑥看護会議（月 1 回）：事業所内の看護内容に関する会議
- ⑦入所前カンファレンス（随時）：各部署の代表者が集まり、入所後のケア方針を確定
- ⑧インシデント・アクシデントカンファレンス（随時）：各チームメンバーで発生状況を検証し、対応策を個別に検討

(2) 研修

- ①感染症に係る研修（年 2 回）：感染症予防およびまん延防止を目的とした研修
- ②コンプライアンス研修（年 1 回）：法令遵守に関する意識と知識の向上を目的とした研修
- ③事故防止に関する研修（年 2 回）：事故防止に向けた知識および対応力の習得を目的とした研修
- ④権利擁護（身体拘束・人権）に関する研修（年 1 回）：利用者の権利擁護に関する知識の習得を目的とした研修

その他、生涯研修等、外部研修への参加も行っています。

(3) 委員会

- ①身体拘束委員会（月/1回）：身体拘束に関する内容の検討
- ②安全衛生委員会（月/1回）：職員の安全確保や健康障害の予防に関する検討
- ③事故委員会（月/1回）：ヒヤリ・ハット事例を含めた事故の予防および再発防止策の検討
- ④褥瘡防止委員会（月/1回）：褥瘡の予防および再発防止策の検討
- ⑤防災委員会（月/1回）：施設内の防火管理や防災対策の検討
- ⑥行事委員会（年/5回）：施設行事の立案および実施に関する検討
- ⑦感染衛生管理委員会（月/1回）：新型コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ、食中毒などの感染症予防およびまん延防止に関する啓発、マニュアルの見直し
- ⑧権利擁護虐待防止委員会（年/2回）：利用者の権利擁護および虐待防止に関する内容の検討

5. コストに関する取り組みについて

- ・施設の機器等の経年劣化による故障については、修理コストと買換えの妥当性を検討し、必要に応じて買換えを実施しました。
- ・水道の使用状況を見直し、水道代を約16万円削減しました。
- ・おむつやパッドの選定および使用方法について、ご利用者の状態に応じて適切なものを提供することで、不要な使用を減らし、コスト削減を図りました。

6. 事業の稼働について

- ・2024 年度稼働率・・・64.9%
- ・新規利用者は増加しましたが、単発での利用が多く、定期利用にはつながらなかったため、目標値には到達しませんでした。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

区分	万葉の里 短期療養介護事業所
延利用者数	652
年間稼働率	64.9%

(2) 年齢別利用者数（2024 年度末現在）

区 分		64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢(歳)
短期療養	男	1	0	0	1	0	0	2	4	80.8
	女	0	0	0	0	0	0	4	4	94.0
	計	1	0	0	0	0	0	6	8	87.4
	%	12.5	0	0	12.5	0	0	75	100	—

(3) 要介護度別延べ利用者数 (2024 年度末現在)

区分	万葉の里 短期療養介護事業所 (実人数)	延べ利用者数
要支援 1	0	0
要支援 2	0	0
要介護 1	0	131
要介護 2	1	116
要介護 3	4	289
要介護 4	0	59
要介護 5	3	57
計	8	652
平均介護度	3.63	

(4) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0
要介護 2	1	0	0	0
要介護 3	0	1	2	1
要介護 4	0	0	0	0
要介護 5	0	0	2	1

(5) 認知度別利用者数 (2024 年度末現在)

区分	万葉の里 短期療養介護事業所
Ⅲ未満	7
Ⅲ以上	1
計	8

2024年度 社会福祉法人寿泉会
万葉の里 居宅介護支援事業所事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

地域包括支援センター、医療機関への営業活動を図りながら、ご利用者確保に努めたことで、要介護者のご利用者数については目標に対して順調に推移しました。介護予防についても同様に地域包括支援センターへ営業活動をはかり、今後も一人ひとりのご利用者を大切に支援することで、地域からの信頼をさらに構築し、ご利用者紹介へつなげてまいります。

2. サービス提供について

(1) 感染症対策について

- ・手洗い・消毒、マスク着用、不要不急の外出の自粛を徹底しました。
- ・ご利用者宅・入所施設・事業所への訪問は、必要最低限に調整しました。
- ・感染症予防対策等の研修会へ参加しました。

(2) 事故抑止について

- ・ご利用者宅や事業所等への訪問時には、余裕をもった行動と安全運転に努めました。
- ・乗車前にタイヤの状態や車両の外観（キズ等）を自主点検しました。
- ・エンジンの異音やその他異常に気付いた際には、速やかに車両担当者へ報告することを心がけました。

3. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ・月 1 回の居宅会議を開催し、情報共有や課題解決に取り組みました。

(2) 研修

- ・万葉の里居宅介護支援事業所主催の地域住民/理学療法士等の勉強会及び交流会（対面）
- ・津一志地区包括支援センター研修会・津在宅療養支援センター研修会参加（対面）
- ・介護支援専門員協会や社会福祉協議会、三重県、各種団体が主催する認知症疾患、制度改正、地域支援事業、ケアマネジメント、加算事業所主催の勉強会、研修会参加。（オンライン）

4. コストに関する取り組みについて

- ・同一地区のご利用者宅への訪問については、効率よく訪問できるよう調整を心がけました。
- ・職員による乱暴な取り扱いや不注意による破損を防ぐため、使用方法や操作手順、周辺環境の確認を徹底し、破損理由の分析・情報共有を行い、再発防止に努めました。
- ・ペーパーレス化および過誤申請防止の取り組みとして、グループ内の提供事業所が直接実績入力を行っています。
- ・業務スケジュールを立て、就業時間内に業務を終えられるよう工夫し、時間外勤務の削減を図りました。

5. 事業の稼働について

- ・地域包括支援センターを訪問し、新規ご利用者の確保に努めるとともに、地域住民との勉強会および交流会を開催し、地域とのつながりを構築しました。また、グループ内事業所とのさら

なる連携を図り、相談窓口としての役割を担うことで、相乗効果をもたらすよう努めました。

6. 利用実績

(1) 利用者実績

月 区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	人数 (%)	前年比 (%)
予 防	支援 1	4	4	3	3	3	2	2	1	1	0	1	1	25	4	39.6
	支援 2	6	6	5	5	6	6	5	6	6	6	5	5	67	11	79.7
介 護	介護 1	21	18	22	22	19	17	17	15	17	17	16	16	217	36	69.3
	介護 2	11	9	10	12	13	12	13	13	14	15	15	16	153	26	89.4
	介護 3	8	6	3	9	5	6	7	9	8	7	8	10	86	14	104.8
	介護 4	4	4	3	2	0	0	0	0	0	0	0	2	15	3	18.9
	介護 5	3	3	3	3	3	3	4	3	2	2	2	3	34	65	87.1
合 計		57	50	49	56	49	46	48	47	48	47	47	53	597	100	71.8

(2) 年齢別利用者数 (2024 年度末現在)

	64 歳 以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳 以上	合計	平均年 齢(歳)
男	1	2	0	4	5	1	5	18	83.4
女	0	1	2	2	7	7	16	35	88.7
計	1	3	2	6	12	8	21	53	
%	1.9	5.7	3.8	11.3	22.6	15.1	39.6	100	

(3) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	0	0	0	1
要支援 2	3	0	0	3
要介護 1	5	3	1	7
要介護 2	3	2	4	6
要介護 3	1	2	2	3
要介護 4	0	0	0	2
要介護 5	0	1	0	2

(4) ご契約状況等 (2024 年度末現在)

契約理由		解約理由			継続中
		ADL 改善	入院	その他	
退院・退所支援	4	0	0	0	4
認知症支援	5	0	2	0	3
看取り	0	0	0	0	0
その他	13	2	0	14	-3
合計	22	2	2	14	4

(5) 年間の研修・会議開催状況 (2024 年度)

実施月及び研修・会議等	
4 月	・介護保険制度改正セミナー
5 月	・津支部研修
6 月	・ケアマネジメント実践力向上研修 ・地域ケア会議 ・「いつまでも地域で自分らしく過ごすために」一志包括研修会 ・「生活困窮者支援でケアマネとしてすべきこと、できること」居宅合同勉強会
7 月	・「災害への備えは OK! ?」高岡地区老人会：八千代会 ・感染研修会「食中毒防止、嘔吐処理」：万葉の里
8 月	・インクルーシブ防災と地域づくり～高齢者、障害者とともに考える防災～ ・防災、BCP 訓練：万葉の里
9 月	・最新の介護保険やカスハラ対策が学べるセミナー ・「災害時のリハビリテーション」高岡地区老人会：八千代会
10 月	・R6 年度介護報酬改定を含めた留意事項について ・「防災について～机上訓練とクロスロード」居宅合同勉強会
11 月	・「お口の健康について」高岡地区老人会：八千代会 ・「相続登記の義務化はなぜはじまった! ? ～相続を争族にしないために～」一志包括研修会 ・「福祉用具の選択制の導入」「有料老人ホームの情報共有について」居宅合同勉強会 ・消防訓練「通報、消火、避難訓練」「火災通報装置と消化器の使い方」万葉の里
12 月	・なし
1 月	・津のわの会議～ACP について利用者にどのように伝えるか～
2 月	・介護職に知ってほしい糖尿病の話 ・高齢者に多い精神疾患（うつ病、統合失調症等）～困難ケースの対応のヒントを得るために～ ・「有料老人ホームやサ高住 各施設の特徴、ケアプラン比較について」居宅合同勉強
3 月	・入退院時からの CM とリハビリテーション専門職の連携 ～自立支援に向けたケアプランを作ってみよう～

2024年度 社会福祉法人寿泉会
万葉の里通所リハビリ事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

ご利用者・ご家族に対して在宅生活上のニーズを確認し、介護および療養に関するアドバイスや、身体機能の維持・向上を目指した日常生活の助言を、理解しやすいよう丁寧に行いました。質の高いサービスを提供できるよう、他職種との情報共有を行い、運動やリハビリテーションを通じて、ご利用者の在宅生活の維持・継続に取り組みました。

また、ご協力いただけるご利用者とともに作品作りを行い、ものづくりを通してご利用者同士の関わりを大切にした運営を行いました。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

ご利用者の身体機能・ニーズに合わせて「活動と参加」を中心にリハビリテーションを実施しました。機能維持を目標とするグループ（リハビリマネジメント加算の算定なし）では、機能訓練を中心に運動を実施しました。一方、買い物・畑仕事・旅行など、具体的な生活目標のあるグループ（リハビリマネジメント加算イ算定）には、リハビリスタッフが直接現場に同行し、評価や目標達成に向けた動作訓練を行いました。また、定期的に関所リハビリ会議を開催し、より良いサービスの提供に努めました。ただ、困っている事が無いと言われ目標設定が曖昧となるご利用者もいることから、生活の様子をより詳しく聞き取る事により、困っていても気づいていない状況がないかの確認や早期に機能維持のグループへの移行等を検討していく必要があると考えております。また、リハビリマネジメント加算算定の有無に関わらず、歩行速度等の身体能力測定を行い、身体機能が向上・低下しているかの確認を定期的に行いました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

計算問題や折り紙などの机上課題の種類を増やし、より多くのご利用者が取り組めるようにしました。特に、男性のご利用者には計算問題や点つなぎが好評で、内容に工夫を加えながら継続して提供しました。問題に苦手意識のあるご利用者には、塗り絵や折り紙など、他の活動を選ぶように配慮しました。また、JOYSOUND の映像や音を活用し、体操・機能訓練を中心としたレクリエーションや、農作業、屋外歩行なども行い、楽しく取り組んでいただけました。

(3) 認知症ケアについて

計算問題等の机上課題や職員からの声かけによる外部刺激、午後のレクリエーションでは、問題形式や JOYSOUND での映像・音と共に楽しむ要素を取り入れ、脳の活性化を図り、認知症の進行予防に取り組みました。その他、定期的に MMSE・HDS-R の認知機能のテストを実施し、担当者会議や照会用紙・リハビリ会議にて他事業所様にも共有し、連携を図りながら認知症ケアに努めました。

(4) 口腔・栄養管理について

加算としては算定していませんが、ご希望のある方および、口腔内に残渣物が残るご利用者には歯ブラシ等を持参していただき、口腔ケアを実施しました。自立にて行えないご利用者につ

いては、職員が介助して実施しました。栄養管理として、ご利用者の摂取状態の把握を行い、ご家族・他事業所様と連携し、摂取量に応じて栄養補助食品等を提案し、ご本人・ご家族の意向に沿って栄養バランスが乱れないよう努めました。また、管理栄養士と共に食事形態を設定した後、他事業所様にお伝えし、連携することにより可能な限り経口から栄養が摂取できるように環境設定を行いました。また、ご利用者の状態を観察し、変化に気づいて迅速に評価や検討を行い、ご利用者に負担にならないように努めました。

(5) 感染症対策について

委員会や定期会議にて、感染に対する研修・発表、新型コロナウイルス、インフルエンザやノロウイルスといった感染症に対して、マスクやフェイスシールドの着用、手指消毒の徹底、嘔吐物処理セットの作成などの対策を行いました。今年度は昨年度同様インフルエンザの感染拡大も防ぐことができました。新型コロナウイルスへの対策に関しても、マスク着用のお願い・手指や車両などの消毒を徹底し、お迎え時に検温等を行いました。

(6) 事故抑止について

委員会に参加し、事故内容の共有及び対策方法の再確認・セラピストによる動作の評価を行うことにより、再発防止につなげることができました。また、年度末には年間の統計を作成し、事故が多発している時間帯や事故内容等を把握することにより、次年度の対策がより立てやすく、職員間で注意点が共有できました。ハード面による事故も発生しており、次年度の課題として検討いたします。

3. 行事の実施について

(1) 全体行事

- ・各月行事について、各担当者を配置し企画・運営。

※新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、感染対策のため中止された行事もございます。

[行事]

- | | |
|-----|------------|
| 4月 | 花見 |
| 5月 | 端午の節句 |
| 7月 | 七夕行事 |
| 8月 | 夏祭り行事 |
| 9月 | 敬老会 |
| 10月 | 運動会 |
| 11月 | 芋掘り、文化祭 |
| 12月 | 忘年会、クリスマス会 |
| 2月 | 節分 |
| 3月 | ひな祭り |

- ・季節を感じることができる工作などをしていただき、その完成した作品と写真撮影を行い、ご利用者同士で生き生きとした会話につながるきっかけとなるよう努めました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ・運営会議(1回/月)

管理者および専門職の代表者による施設運営に関する会議

- ・CS・ES 会議（1 回/月）

顧客満足・従業員満足に関する会議

- ・デイケア運営会議（1 回/月）

上記会議での内容報告やデイケアでの行事、サービスの方向性を議論。午後利用者へのサービスに関する課題点について解決策を検討

- ・夕礼（毎日ご利用者送迎後）

当日のご利用者の身体状況、担当者会議・リハビリ会議等の内容の報告、新規調査の報告などについて、リハビリ職員とともに検討（業務改善・情報共有・症例検討）

（2）研修

- ・感染症に係る研修（対象：全職員・年 2 回）：感染症予防及びまん延防止のため
- ・コンプライアンス研修（対象：全職員・年 1 回）：法令遵守のため
- ・権利擁護（身体拘束・人権）に関する研修（対象：全職員・年 1 回）：ご利用者の権利擁護のため
- ・事故防止に係る研修（対象：全職員・年 2 回）：事故防止に向けた知識等の取得
- ・グループ内研修（対象：全職員・随時）：職員全体のスキルアップ

（3）委員会

行事委員会・感染委員会・事故防止委員会といった施設内の各委員会に、通所リハビリ職員が担当者として参加し、施設全体の検討課題の解決や対策に取り組みました。

5. コストに関する取り組みについて

- ・光熱水費や物品などのコスト管理については、単なる経費削減ではなく、限られた財源の中で無駄を省き、費用対効果を高めるという視点を持って、必要性を検討した上で購入や修繕を起案しました。
- ・職員による乱暴な取り扱いや不注意による破損を防ぐため、使用方法や操作手順、周辺環境の確認を徹底し、破損の理由を分析・共有して再発防止に努めました。

6. 事業の稼働について

年度末登録者数 61 名（予防 1 名・介護 60 名）

1 日平均人数 17.69 名・稼働率 44.23%

7. 利用実績

(1) 利用者実績

		開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
2024 年度	4月	30 日	593人	19.8人／ 日	26（0）人	44（1）人	2.2
					70（1）人		
	5月	31 日	592人	19.1人／ 日	24（0）人	43（1）人	2.3
					67（1）人		
	6月	30 日	555人	18.5人／ 日	23（0）人	39（1）人	2.3
					62（1）人		
	7月	31 日	512人	16.5人／ 日	23（0）人	36（1）人	2.3
					59（1）人		
	8月	31 日	507人	16.4人／ 日	23（0）人	33（1）人	2.3
					56（1）人		
	9月	30 日	506人	16.9人／ 日	24（0）人	34（1）人	2.2
					56（1）人		
	10月	31 日	523人	16.9人／ 日	25（0）人	34（1）人	2.3
					59（1）人		
	11月	30 日	536人	17.9人／ 日	26（0）人	32（1）人	2.2
					58（1）人		
12月	29 日	532人	18.3人／ 日	28（0）人	34（0）人	2.3	
				62（0）人			
1月	28 日	520人	18.6人／ 日	28（0）人	33（1）人	2.3	
				61（1）人			
2月	28 日	490人	17.5人／ 日	27（0）人	32（1）人	2.3	
				59（1）人			
3月	31 日	504人	16.3人／ 日	29（0）人	32（1）人	2.2	
				66（1）人			
年度 合計	合計 360 日	延べ 6370 人	年間平均 17.72人 ／日	306（0） 人	426（11） 人	平均 2.3	
				735（11）人			

(2) 年齢別利用者数（2024 年度末現在）

	64歳 以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳 以上	合計	平均年 齢(歳)
男	4	3	4	1	4	4	9	29	79.2
女	0	0	2	4	8	6	12	32	86.2
計	4	3	6	5	12	10	21	61	82.9
%	6.6%	4.9%	9.8%	8.2%	19.7%	16.4%	34.4%	100%	—

(3) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	0	0	0	1
要支援 2	0	0	0	0
要介護 1	3	4	1	10
要介護 2	6	7	0	8
要介護 3	0	4	0	11
要介護 4	0	2	1	0
要介護 5	0	0	0	3

(4) 利用者の生活状況 (2024 年度末現在)

食 事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	58	2	1	61	
移 動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	5	37	11	8	61
入 浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	20	34	7	61	
着 脱	自力	一部介助	全介助	計	
	21	30	10	61	
排 泄	自力	一部介助	全介助	計	
	26	26	9	61	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	1	4	5		

(5) 年間の行事等 (2024 年度)

行事实施月及び行事名等	
4 月	花見
5 月	鯉のぼり・鯉のぼり飾り
6 月	
7 月	七夕イベント
8 月	夏祭り
9 月	敬老の日イベント
10 月	運動会
11 月	地域文化祭へ作品展示・さつまいも掘り
12 月	忘年会・クリスマス会
1 月	年始行事・絵馬作成
2 月	節分
3 月	ひな祭り・ひな人形飾り作り・
備考	<ul style="list-style-type: none">・ 月 1 回陶芸教室…第四土曜日・ お誕生日会…随時・ 季節に合わせた作品作り<ul style="list-style-type: none">…陶芸作品・折り紙を使用しての桜やひまわり作り等

2024年度 社会福祉法人寿泉会
万葉の里訪問リハビリテーション事業実績報告書

1. 2024 年度の事業活動について

2023 年度と同様に 2 台体制で稼働し、目標稼働率 80%を目指して運営してきました。コロナ感染によるお休みは減少しましたが、入院や入所により利用を中止されるご利用者が多く、稼働率が目標に届かない月も多く見られました。利用終了に伴い空いてきた枠には新規のご依頼をいただき、稼働率の向上に努めました。

2024 年 12 月までは通常営業を行っていましたが、2025 年 4 月および 7 月にスタッフの育児休業が予定されているため、稼働台数を 1 台に変更する方針となりました。そのため、2 月より新規のご依頼受付を中止し、7 月以降に 1 台体制とできるよう、ご利用者の利用調整（終了を含む）を進めております。

2. サービス提供について

(1) リハビリテーションについて

ご利用者の身体機能に合わせて「活動と参加」を積極的に促し、ベッド上での運動から自宅内・屋外での動作（畑作業などを含む、必要または希望される動作）を中心に運動を実施しておりました。ご希望があれば、よく行かれる施設（スーパーや床屋など）での動作評価をケアプランに組み込んでいただき、実際の場所で動作確認をさせていただくこともありました。

次のステップに進むための下準備（体力づくりなど）をしっかりと行い、目標達成（卒業）に向けて取り組んでおりました。また、2 名体制による提供内容のばらつきを防ぐため、介入前後の情報共有やアプローチの統一、ミーティングの実施なども行っておりました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

なし

(3) 認知症ケアについて

なし

(4) 口腔・栄養管理について

なし

(5) 感染症対策について

スタッフに咳などの症状が見られる場合はマスクを着用し、ご利用者ごとに手洗いや手指消毒を実施しておりました。職員間や介護支援専門員との間で情報共有に努め、感染対策に迷う場面では、その都度上司に報告・相談のうえ、指示を受けて対応しておりました。体温計測については、非接触型体温計を使用しています。

また、ノロウイルスなど嘔吐を伴う感染症への対応としては、感染対策キットを作成し、訪問用の公用車に常備しております。ご利用者宅で嘔吐などが発生した際には、速やかにキットを使用するよう職員に周知しています。

(6) 事故抑止について

無理な運転が発生しないよう、過密なスケジュールを避け、余裕を持たせたスケジュール管理を行いました。通常は1件あたり40分の介入で1日7件まで対応可能ですが、美杉・白山方面については6件／日にとどめ、17時頃の帰設とするよう調整しておりました。

また、施設からの出発時および帰設時にはアルコールチェックを実施し、急発進や急停車が起こらないよう、車間距離を十分に取り、安全運転に努めております。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

なし

(2) ユニット行事

なし

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

①リハビリミーティング（毎月第1月曜日）

：万葉の里入所・デイ・訪問リハの業務改善や対応の難しい症例への検討会等
翌日開催のCS会議に出す議案確認

②訪問リハビリミーティング（毎月リハビリミーティングまでに実施）

：万葉の里訪問リハ事業の業務改善や対応の難しい症例への検討会等

(2) 研修

各自県土会等参加

(3) 委員会

なし

5. コストに関する取り組みについて

訪問リハビリサービスは、永続的に利用していただくのではなく、目標を達成し「卒業」していただくことを目的としております。そのうえで、サービス終了後に空きが生じないよう、可能な範囲で利用調整を行ってまいりました。

入院による利用日の確保については、枠を空けておく期間の設定や、介護支援専門員との密な連絡調整を行ってまいりました。ただし、長期入院により終了判断が難しいご利用者については、新規依頼があった際にその依頼を優先させていただく旨をお伝えし、ご了承をいただくようにしてまいりました。

また、ガソリン代を節約するため、移動ルートの調整を行い、効率よく訪問できるよう工夫してまいりました。

6. 事業の稼働について

2024年度稼働車両2台、実績5385件(20分/回、最大算定可能件数7168件、平均稼働率75.1%)

7. 利用実績データ（訪問リハビリ）

(1) 利用者実績

訪問リハ	稼働日数	登録者数 (予防)	延べ訪問件数	平均訪問件数 (件／日)	平均介護度
4 月	22	41 (10)	460	20.9	1.7
5 月	23	47 (10)	523	22.7	1.8
6 月	20	46 (10)	466	23.3	1.8
7 月	23	46 (10)	524	22.8	1.8
8 月	22	41 (11)	452	20.5	1.8
9 月	21	41 (11)	443	21.1	1.8
10 月	23	46 (12)	529	23.0	1.7
11 月	21	46 (12)	446	21.2	1.7
12 月	20	46 (12)	413	20.7	1.6
1 月	20	48 (12)	407	20.4	1.8
2 月	20	48 (13)	362	18.1	1.7
3 月	21	48 (12)	360	17.1	1.6
年間	256 日	544 名 (135 名)	年間延べ件数 5385 件	平均 21.0 件／日	平均 1.7

(2) 年齢別利用者数 (2024 年度末現在)

	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢 (歳)
男	2	0	2	2	6	4	6	22	82.2
女	0	1	3	5	9	9	11	38	83.6
計	2	1	5	7	15	13	17	60	82.9
%	3%	2%	8%	12%	25%	22%	28%	100%	

(3) 介護度別世帯状況 (2024 年度末現在)

区 分	独居	日中独居	老々世帯	同居	施設等
要支援 1	0	0	2	0	0
要支援 2	4	0	1	4	0
要介護 1	2	1	1	5	0
要介護 2	4	1	2	3	1
要介護 3	1	1	0	4	0
要介護 4	0	0	0	0	0
要介護 5	0	0	0	0	2

(4) ご契約状況等 (2024 年度)

契約理由		解約理由			継続中
		ADL 改善	入院	その他	
退院支援	6				
認知症支援	0				
看取り	0				
ADL 低下	13	2	5	8	
合計	19	2	5	8	

*2024 年度新規契約 19 件、終了 15 件 (以前より利用している利用者含む)

(5) 年間の研修・会議開催状況 (2024 年度)

実施月及び研修・会議等	
4 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
5 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
6 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
7 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
8 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
9 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
10 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
11 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
12 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
1 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
2 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング
3 月	リハビリミーティング、訪問リハビリミーティング